

第 1 回桶川市振興計画審議会の開催結果

〈実施結果概要〉

【開催日】令和 2 年 2 月 23 日（日）

午後 2 時から午後 4 時 15 分まで

【開催場所】本庁舎 会議室 303・304

【出席委員】11 名 ※1 名欠席

【役 職】会長：大沢委員（学識経験）

副会長：水村委員（教育委員会委員）

【傍聴者】1 名

【諮問事項】桶川市次期振興計画基本構想について諮問

【審議等】

- ・桶川市の状況を説明。
- ・次回は、将来都市像などについて、統計データなど基礎資料に基づき審議を行う。

会 議 録（1）〈要約〉

会議の名称	第1回桶川市振興計画審議会
開催日時	令和2年2月23日（日） （開会）午後2時00分・（閉会）午後4時15分
開催場所	桶川市役所 会議室303、304
主宰者の氏名	企画財政部企画調整課
議長の氏名	大沢会長
出席者氏名 （委員）	岩崎委員、岡野委員、新妻委員、井上委員、秋山委員、 水村委員、小峯委員、中村委員、加藤委員、永井委員
欠席者氏名 （委員）	吉田委員
説明員氏名	企画財政部企画調整課、ランドブレイン株式会社
事務局職員 職名及び氏名	企画財政部 川邊部長、本庄副部長 企画調整課 向井課長、篠原係長、宇賀神主任、栗原主事、 須賀主事補
会 議 事 項	議 題 1. 開会 2. 会長・副会長選出 3. 議事 （1）桶川市第五次総合振興計画について （2）（仮称）桶川市第六次総合振興計画の策定について （3）その他 4. 事務連絡等
	決定事項等 ・会長は大沢委員、副会長は水村委員に決定。 ・次回、将来都市像などについて、統計データなどの基礎資料に基づき審議を行う。 ・第2回振興計画審議会は、令和2年5月16日（土）18時から開催予定。
配布資料	【資料1】桶川市第五次総合振興計画について 【資料2】（仮称）桶川市第六次総合振興計画の策定について 【参考資料1】桶川市振興計画審議会条例・委員名簿 【参考資料2】市民意識調査結果（単純集計）

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
議題 (1) 桶川市第五次総合振興計画について	
事 務 局	資料 1 に基づき、桶川市の総合振興計画、第五次総合振興計画の概要、第五次総合振興計画の進捗状況について説明。
委 員	人口減少がマイナス要因として示されていますが、 人口が減少しているから人口を増やしましょうという単純な話ではない と考えます。 人口が減ることによるマイナスの要因とは何か、人口が増えることの効果や影響について整理した上で進めていく必要がある と思います。
事 務 局	国の地方創生では、人口減少の速度を緩やかにしていき、2060年には1億人程度の人口を維持することを目指しています。生産年齢人口の減少により財政環境にも影響を及ぼし、地域の活気や地域コミュニティの維持が課題になると考えられます。総人口の増減だけでなく、人口動態も考える必要があるのではないかと思います。人口減少社会では、これまでの拡大と成長から、成熟と維持という視点が重要になってくるものと考えます。
委 員	第一次振興計画では、約2倍の人口増を目標人口に設定しています。第三次でも約1.7倍の人口増を目標にしており、第五次の目標人口は1.02倍の77,000人としています。人口増の要因として、転入者を増やそうとしたのか、あるいは出生を伴った人口増加を目指したのか、その背景が分かれば教えてください。
事 務 局	第五次振興計画では、土地区画整理事業を推進することにより、一定数人口が増えていくという推計を加味しています。第三次等の経緯についても、確認して次回以降でお示ししたいと思います。
会 長	全体のトレンドとして、東京への一極集中により首都圏の人口は、増え続けており、傾向として圏央道の内側（以南）地域は、人口増または横ばいとなっています。 今後は、人口が増えるだけでなくライフスタイルの質を良くしていくことに着目 し、例えば夜間人口でなく昼間人口についての視点や、住んでいる人はどのように活動をしているのかを把握することが重要です。昨今の活動量の指標では、高齢者より若者世代が低く、外出率が少ないのは20歳代と言われています。 今までの人口推計は夜間人口ベースでの考えですが、これからはアクティブな人口、昼間人口の視点を考える必要があります があり、 単に人口の増減だけを捉えると見誤ってしまう と考えます。次回以降、詳しく議論したいと思います。

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
委 員	都心に近いことによってベッドタウン化し、消費が市外へ流出しやすくなっているといった課題も考えられます。そのような経済的な構造が分かる情報があるとよいです。また、桶川市は横に長い地理になるので、地区によっては近隣自治体の影響を受けると考えられます。広域の視点も踏まえ、議論していく必要があります。
事 務 局	圏域という視点もありますので、近隣の自治体の状況なども次回お示ししたいと思います。
会 長	都市計画道路の計画などは、隣接する自治体と整合が図れていないケースもあります。隣接する自治体の土地利用計画なども整理いただきたいと思います。
委 員	5Gが話題となっていますが、今後、テレワーク等により勤務形態や交流人口の状況が変化すると思われます。人口の総数を見るだけでなく、消費に着目した人口動態も議論する必要があると思われます。
事 務 局	働き方改革により、テレワークなどの先進事例が増えてきています。今後、AIをはじめとした未来技術の発展により働き方も含め市民の価値観も変化していくものと思われます。人口増減の議論だけでなく、人口動態や市民の生活の豊かさという視点も含め議論して頂ければと思われます。
会 長	AIなどの技術革新により、多様化するライフスタイルやビジネススタイルについて、様々なニーズを実現できる時代となっています。今回の新型コロナウイルスを契機として、テレワークを本格的に導入していく企業も増加すると思われます。自宅で仕事をする、または最寄りのサテライトオフィスで仕事をするなど、様々な働き方があると思われます。そういった働く場所を確保できると良いかもしれません。現状と課題を踏まえ、何が必要か議論できればと思われます。
副 会 長	産業構造や税収について議論することも重要です。税収が減少すると、やりたい施策があっても実施できません。将来の財政環境も含め議論していきたいと思われます。

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
事 務 局	今回、頂戴したご意見を踏まえ、必要な情報を次回の会議資料として整理いたします。桶川市は都心へ通勤されている方が多い状況です。一方で、職住近接など多様な生活スタイルに応じていく必要もあります。生産年齢人口の減少による税収への影響なども含め、議論していただければと思います。
副 会 長	上尾道路沿道の土地利用について議論が必要 です。 現在の状況は沿道を生かしきれていない と思います。幹線道路が開通しても地域に何の変化も生じない状況になってしまいますので、ぜひ議論したいと思います。
会 長	昨今、 人の動きだけでなく、モノの動きも変化 しています。例えば、スーパーで買い物をして帰るのではなく、ネットで注文し宅配してもらおうサービスも増えています。そうすると、それを支える新たな産業基盤が必要になります。 ライフスタイルの変化と産業構造の変化をどのようにとらえるか 、今後、議論していきたいと思ます。
委 員	将来的には、 外出して買い物をする必要がない時代 になると思います。また、 車やバスも運転手がいなくなり、無人で走る時代 になると思います。A Iなどについて、考え方はありますか。
事 務 局	国は、生産年齢人口の減少に伴う生産性の低下を、A Iなど未来技術によって補うこととしています。また、国の研究会では、日本の高齢者の人数がピークを迎える2040年頃、自治体は現在の半分の職員数で行政サービスを維持する必要があるとしています。 Society 5.0など新しい潮流をどのように計画に盛り込むのか難しい面もありますが、将来都市像を考える上で議論していく必要があると考えています。
委 員	今後、 高齢社会の進展に伴い労働者が減少 していきます。そういった問題も考えなくてはならないと思います。
会 長	高齢化により、公共交通の一翼を担うバスについて、運転手不足が問題 となっています。また、 後継者など担い手不足により経営が立ち行かなくなる といった事例が顕在化しています。そういった窮状を A Iなど革新的な技術が補う といった考え方があります。 都市経営の観点から担い手の在り方を考えていきたい と思います。

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
議題（２）（仮称）桶川市第六次総合振興計画の策定について	
事 務 局	資料２、参考資料１、参考資料２に基づき、（仮称）桶川市第六次総合振興計画の策定及び市民意識調査について説明。
委 員	参考資料２の設問３では「住み続けるつもりでいる」が約６０％となっていますが、回答者の内訳として居住年数が２０年以上の方が多く、居住年数５年未満の方は１０％未満となっています。 持ち家の方は余程のことがない限り住み続けると思いますが、持ち家でない方、居住年数が浅い方がどのように考えているのか 、そのような方々が桶川市に住んでみて、引き続き桶川市に定住したいと考えているのか、また、そうでない場合、その原因は何かを把握する必要があります。 転勤など事情がないかぎり住み続けたいと思う方を増やしていくことが重要 だと思います。
事 務 局	今回は単純推計をお示ししましたが、次回は属性毎にクロス集計を行い資料としてお示ししたいと思います。
委 員	参考資料２の設問３で「事情が許せば転出したい」「転出するつもりでいる」を選んだ方の理由の多くが、設問４「通勤・通学・日常の買い物が不便だから」となっています。この結果は、都心まで４０km圏に位置する桶川市が通勤や通学に便利という立地特性に反しています。 どのような状況の方々が回答しているのか、分析する必要があります。 また、全国的にみて、 人口が増加している地域では、教育や子育て環境に特化しているところが多い印象 があります。茨城県つくば市、千葉県流山市などは人口が増加している自治体ですが、そういった自治体は、子育て環境の良さをPRしています。今回の意識調査の結果では、 子育て環境を充実させてほしいという意見もありますので、ぜひその点も議論 できればと考えます。
委 員	川田谷地区の人口減少の推計に驚いています。 市街化調整区域の農地 についてはどのような考えがありますか。

議 事 の 経 過

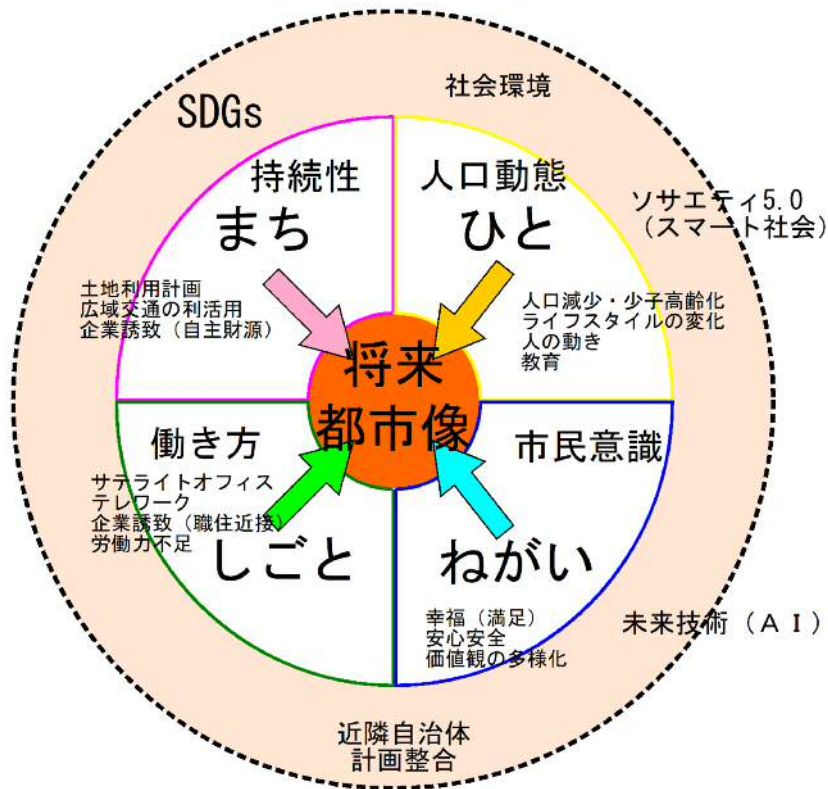
発言者	発 言 内 容
事 務 局	<p>資料1、P12都市計画図中、白い部分が市街化調整区域となっており、市街化を抑制する区域です。国では、農業人口が減っている中で農地を集約化するといった考えがあります。川田谷を含む市街化調整区域は、市街化を抑制する区域のため、人口減少は著しい状況です。地域コミュニティなども含め、市街化調整区域の在り方について議論が必要であると考えています。</p> <p>上尾道路の沿道については、将来的な土地利用のあり方が課題となっています。土地利用の抑制と誘導、地域コミュニティの維持といった観点も踏まえ、議論していただければと考えています。</p>
委 員	<p>桶川市の人口は横ばいですが、昼間は都内に出てしまう人が多い状況です。また、昼間、市外からどのくらい人がきているか、大学生の送迎バスも増えているので若者が増えているように思われます。最近、駅前には単身世帯のワンルームも増えていると感じています。どのような人達がどのような動きをしているのか、人口の動きをわかる範囲で示していただきたいと思います。</p>
事 務 局	<p>次回以降、資料を整理してお示ししたいと思います。桶川市は、駅を中心に同心円状に人口が分布し、都内に勤めている人が多い状況です。桶川駅の1日の利用者数（乗降客数）は5万人を超えていますが、年々減ってきています。昼夜間でみると昼間の人口は夜間に比べ少なくなっています。実際の人々の動きを捉えるのは難しいですが、統計データなどにより可能な範囲で整理していきたいと思います。</p>
委 員	<p>桶川市は上尾方面で買い物をする人が多いと思います。上尾市は大きなスーパーもあり、主婦は車で買い物をする印象があります。買い物に行く場所は重要で、桶川市のほか、どの地域（自治体）で消費しているのかも加味して考える必要があると思います。</p>
事 務 局	<p>統計等の調査結果など、わかる範囲で示していきたいと思います。</p>
会 長	<p>買い物行動については、国の実施しているパーソントリップ調査の結果等で分かるかもしれませんが。次回そのような客観的データを準備願います。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
委 員	地区別の将来人口推計は、現状の人口を参考にしているのでしょうか。推計にあたっての前提条件について教えてください。
事 務 局	過去のトレンドから単純推計をしており、開発要因などは含めていません。
委 員	共働き世帯が多くなっています。 40～50歳代の方々の就業状況を示していただければありがたい です。
事 務 局	次回、お示ししたいと思います。
会 長	子育て世代の方々が、1日にどのような活動をしているのかを把握することは重要 です。子育てをしている方と、していない方では帰宅時間が異なります。例えば、子育てをしている方は15時に子どものお迎えがあるので、帰宅する必要があります。そうすると都心で働く保護者に対し、子育て支援施設は、何時まで稼働するべきかという議論になります。桶川市のデータはないかもしれませんが、県単位など大きい単位のトレンドでも良いので、 子育て世代の1日の活動データなどがあれば、次回お示し願います。
委 員	将来人口推計の考え方について、市としてどのような方向で考えているのか、いくつかのプランやパターンをお示しいただければと思います。
事 務 局	今回、お示しした資料は単純推計であり、開発要因等を考慮したものにはなっていません。人口減少や生産年齢人口を緩やかにするといった観点で、いくつかのパターンをお示ししていきたいと考えています。
委 員	ワールドカフェの募集は、どのようにするのでしょうか。市の広報等を利用して募集するとのことですが、幅広い年齢層を集めるための工夫はありますか。

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
事 務 局	ワールドカフェは、4月の開催を予定しています。3月広報と市ホームページに掲載する予定です。生活圏域となる市内5地区に会場を設け開催する予定です。
委 員	子育て世代の意見を求めるのであれば、幼稚園、保育所、小中学校にチラシを配布して募集をかける方法もあります。広報と市ホームページだけでは、周知が不安です。小中学校へのチラシは、5～6千枚で対応できるので、効果的だと思います。ワールドカフェを開催するというを示すだけでも良いと思います。
会 長	ワールドカフェは良い取り組みだと思います。 周知の仕方についてはぜひ工夫していただければと思います。
委 員	基本構想に掲げる将来像について、市としてイメージしているものがあればお示し願います。 資料1、P1表中、第1次から第4次までの計画では、将来都市像に「緑豊か」や「文化」をうたっています。一方、第五次総合振興計画では、「交流拠点都市」を掲げています。交流という視点は市民意識調査だけでは把握しづらいように思います。また、参考資料2の設問34では「自然環境」や「文化」の充実希望度は低くなっています。 これまでの振興計画の経緯を踏まえ、市の方でも目指したいことや取り入れたいトレンド、押さえておきたいポイントなどがあれば、市民意識調査や将来人口推計といった基礎資料に加え、お示しいただきたいと思います。
会 長	各振興計画の将来像については、当時の社会情勢や自治体独自の政策や課題等を踏まえ策定してきたと思います。市で考える方向性などがあれば、次回、整理してお示し願います。
事 務 局	次回整理してお示しいたします。
委 員	施策の大綱は、ある程度継続性が求められ大きく変えてはいけな いと考えています。 まずは今までの計画の変遷をお示しいただきたいという主旨ですので、よろしくお願ひいたします。

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
事 務 局	了解いたしました。
会 長	以上をもちまして、第1回桶川市振興審議会を閉会いたします。 慎重な御審議をいただきありがとうございました。

第1回審議会での意見等まとめ



関連キーワード



(仮称) 第六次総合振興計画の策定に向けて

令和4年1月30日

目次

1.	これまでの総合振興計画	1
(1)	振興計画の変遷	1
(2)	土地利用の変遷	2
2.	第五次総合振興計画の概要	4
(1)	第五次総合振興計画（以下、第五次）の構成	4
(2)	第五次総合振興計画における土地利用の基本方針	5
(3)	土地利用	6
3.	第五次総合振興計画の進捗状況	7
(1)	人口の推移	7
(2)	基本計画に掲げる施策の達成状況	15
(3)	現状と課題	16
4.	（仮称）第六次総合振興計画の策定について	17
(1)	将来人口	17
(2)	策定体制と策定に向けた流れ	20

1. これまでの総合振興計画

(1) 振興計画の変遷

計画回次	計画期間	将来都市像	目標人口（人）
			計画策定時人口※ ¹
第一次	昭和47年3月～ 昭和60年 昭和58年8月	緑濃き豊かな文化都市の建設	100,000 42,263 (2.37倍)
第二次	昭和58年9月～ 平成12年10月 平成3年3月	うるおいのあるおちついた 文化都市桶川	100,000 57,993 (1.72倍)
第三次	平成3年4月～ 平成23年3月 平成13年8月	県央の生活文化都市ニュー 桶川	120,000 69,298 (1.73倍)
第四次	平成13年9月～ 平成23年3月	はつらつとした緑豊かな市 民文化都市おけがわ	80,000 74,368 (1.08倍)
第五次	平成23年4月～ 令和3年3月	みんなで つくり 育む 活気あふれる交流拠点都市 おけがわ	77,000※ ² 75,422 (1.02倍)

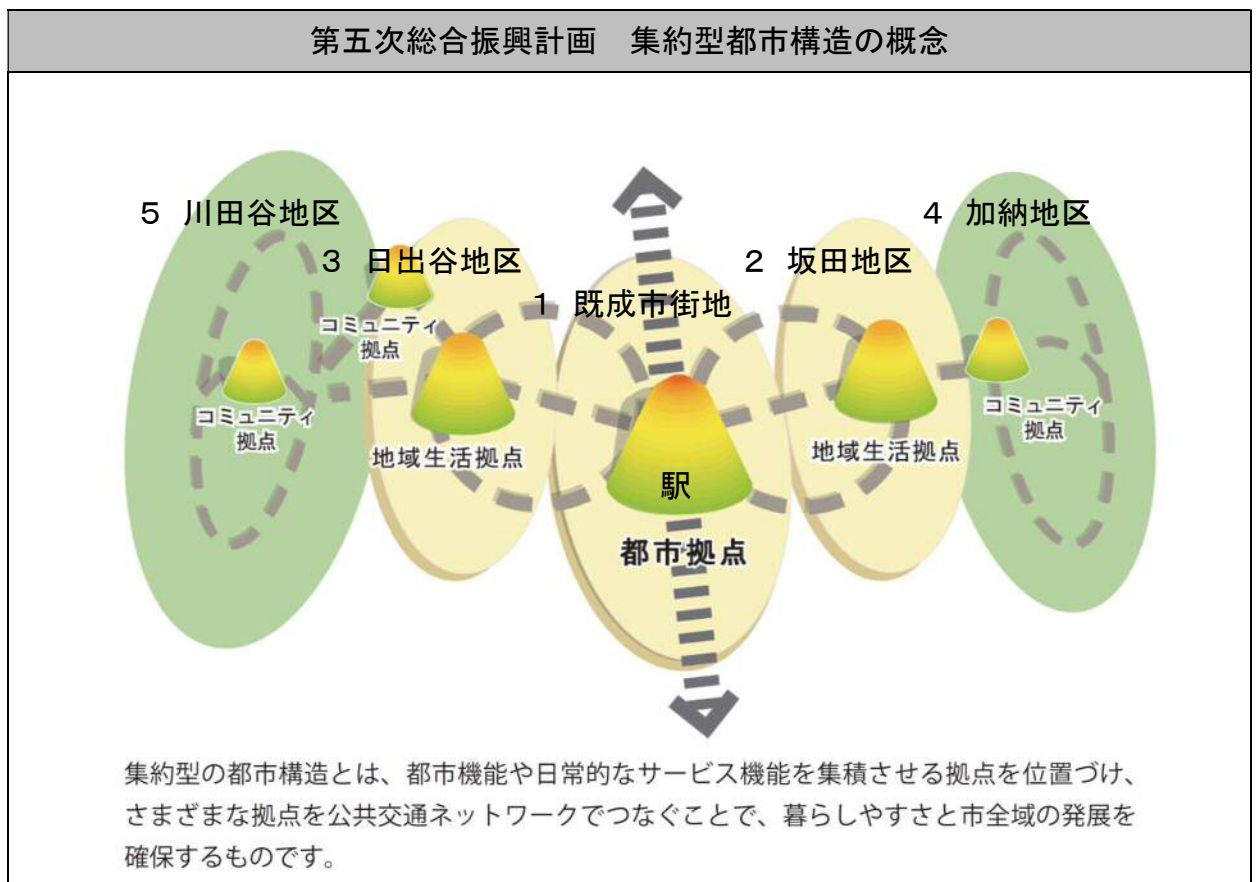
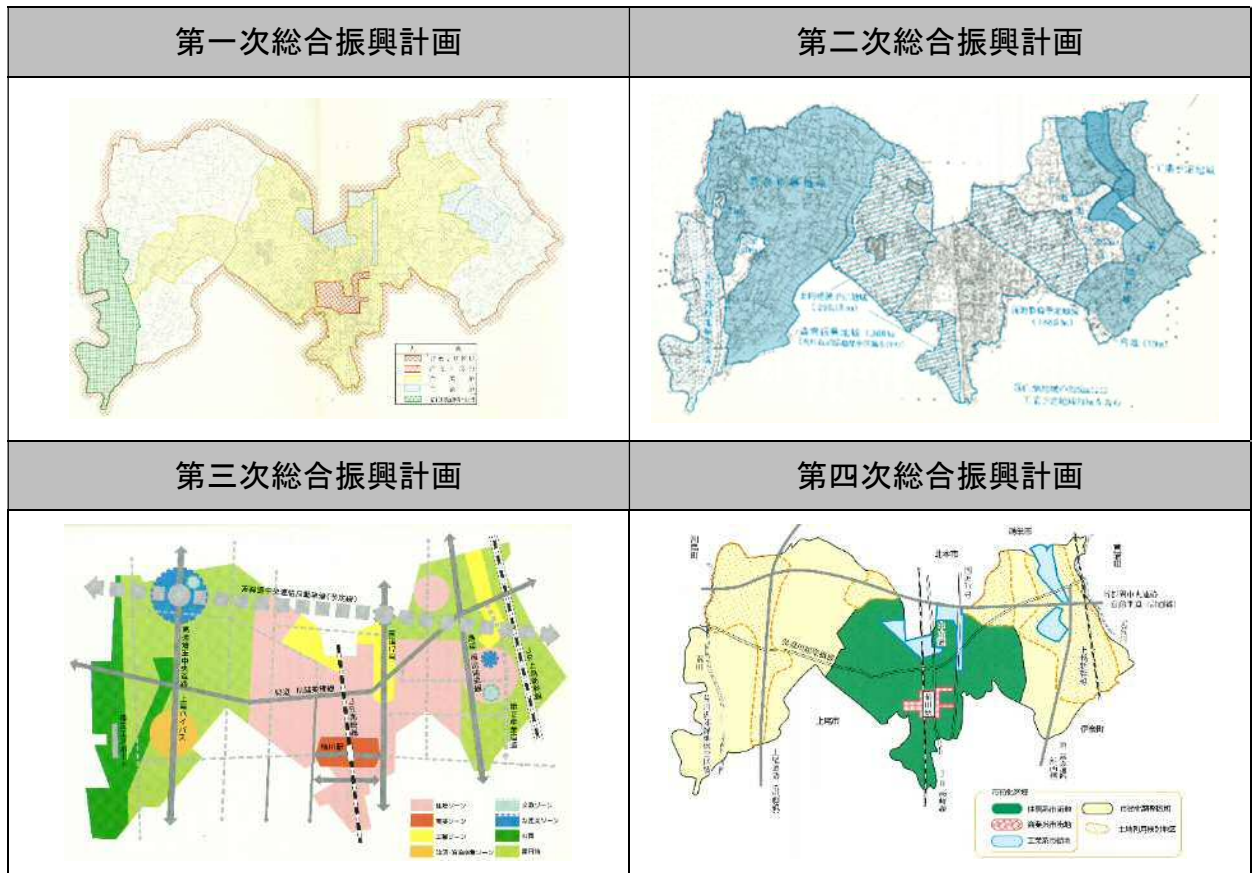
※1：計画策定年次の4月1日の住民基本台帳人口。（ ）内は計画人口との倍数。

※2：桶川市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成28年3月）では、74,000人（令和2年1月1日現在）を目標人口として設定。

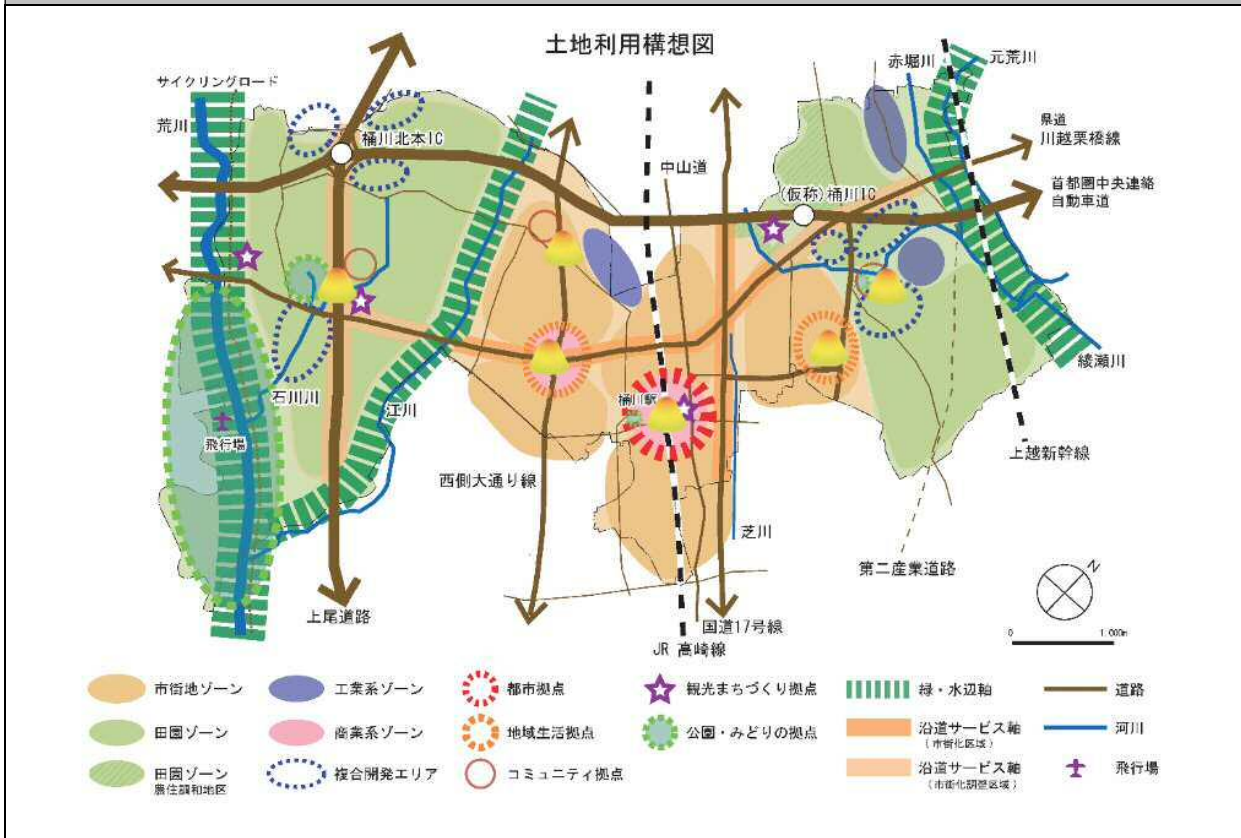


(2) 土地利用の変遷

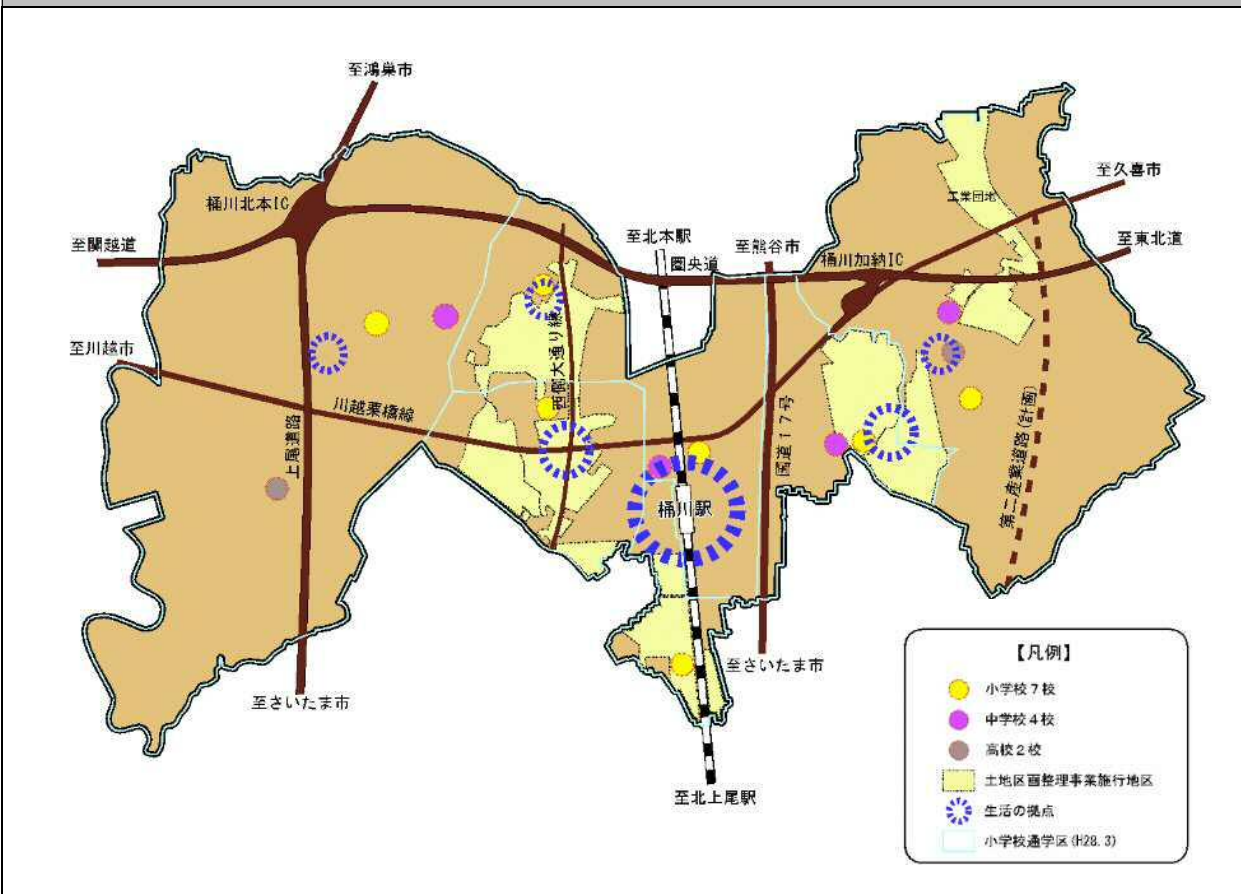
- ▶ 第五次総合振興計画では、これまでの駅を中心としたまちづくりから、生活圏域毎に拠点を配置する集約型都市構造へ土地利用を転換している。



第五次総合振興計画土地利用構想図



都市基盤整備概要図



2. 第五次総合振興計画の概要

(1) 第五次総合振興計画（以下、第五次）の構成

- ▶ 計画期間を10か年とし、長期計画（10か年）としての基本構想、中期計画（前後各5か年）としての基本計画、短期計画としての実施計画（3か年）の3階層により構成している。
- ▶ 将来像「みんなで つくり 育む 活気あふれる交流拠点都市 おけがわ」の実現に向け、まちづくりを推進する。

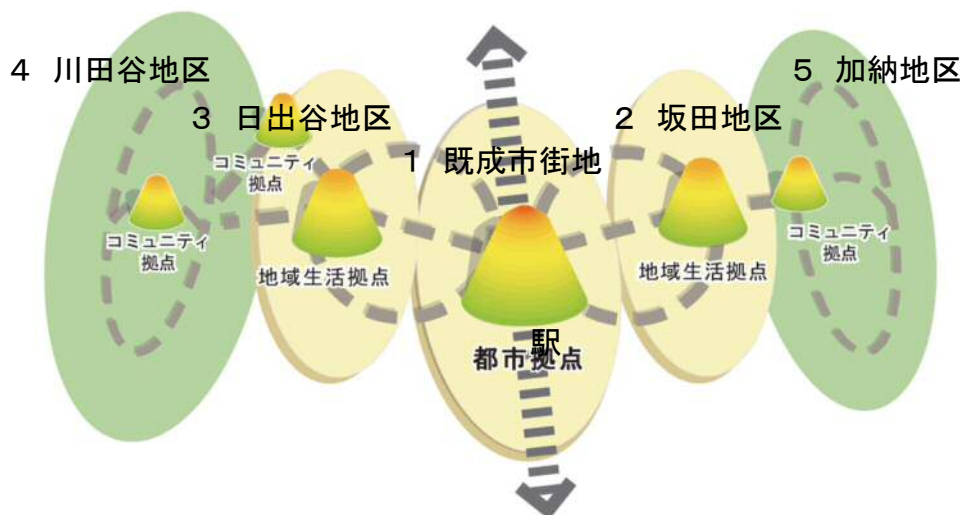
基本構想 (第1層)	第1章 目的と期間	本市の将来像の姿を示す将来像を掲げるとともにその実現に必要なとされる施策の大綱を定める。 計画期間は、平成23年度から令和2年度までの10年間。
	第2章 基本理念	一人ひとりを大切にすまち
		安心・安全に住み続けられるまち
		人と自然が共生するまち
		活力に満ち人が集うまち
	第3章 将来像	みんなで つくり 育む 活気あふれる交流拠点都市 おけがわ
	第4章 まちづくり の枠組み	人口フレーム 目標人口（令和2年） 77,000人
		土地利用（基本方針）⇒集約型都市構造の形成 ・歩いて暮らせるまちづくり ・広域交通網をいかしたまちづくり ・水辺と農が調和するまちづくり
		だれもが主役の桶川をつくる【参画・協働】 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる【教育・文化】 共に支え合いいきいきと暮らせる桶川をつくる【健康・福祉】 環境にやさしく安心・安全に住み続けられる桶川をつくる【市民生活】 みどりと調和した暮らしやすい桶川をつくる【みどり・都市基盤】 にぎわいと活力ある桶川をつくる【産業】 計画的で将来を見据えた桶川をつくる【行財政運営】
	第5章 施策の大綱	
基本計画 (第2層)	基本構想に基づき行政の分野ごとに現状と課題を明らかにし、必要な施策を総合的、体系的に定めている。基本構想における施策の大綱毎に各取組を展開。計画期間は前期、後期各5年、計10年間とし、施策の目的達成度を測るための指標を設定。	
実施計画 (第3層)	基本計画で示された施策について、財政状況や社会経済情勢を考慮し、具体の計画を定める。計画期間は3年間とし原則として毎年度見直しを行う。	
【体系図】	<p>The diagram illustrates the planning framework. On the left, a pyramid shows the hierarchy: Basic Vision (top), Basic Plan (middle), and Implementation Plan (bottom). On the right, a timeline shows: H23 (2011) to H27 (2015) for the Basic Vision (10-year period); H23 (2011) to H28 (2016) for the Basic Plan, split into a 5-year front period and a 5-year back period; and H28 (2016) to R2 (2020) for the Implementation Plan (3-year period).</p>	

(2) 第五次総合振興計画における土地利用の基本方針

- ▶ 市域を基礎的なコミュニティとして5つの生活圏域に分け、都市機能や日常的なサービス機能を集積させる拠点を配置し「歩いて暮らせるまちづくり」の形成を図る。
- ▶ 上尾道路及び圏央道 IC の開通により、交通利用圏域が拡大される事から産業立地など市域に活力を生み出す「広域交通網を活かしたまちづくり」の形成を図る。
- ▶ 生物多様性の維持、自然環境の保全及び農業振興を積極的に行う「水辺と農が調和するまちづくり」の形成を図る。(具体の土地利用の詳細は次頁参照)

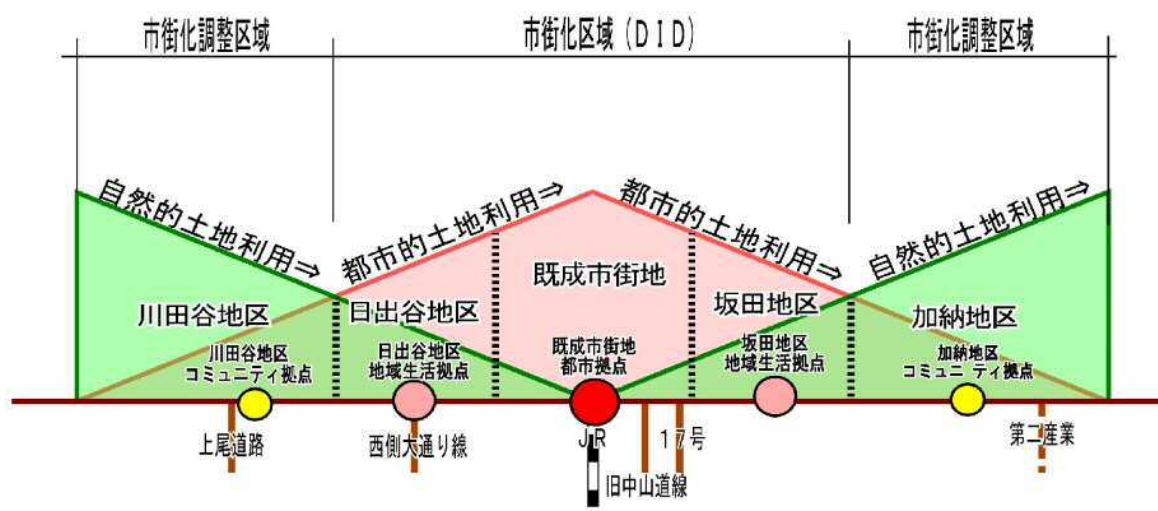
第五次総合振興計画 集約型都市構造のイメージ (P2 再掲)

図 本市における集約型の都市構造 (イメージ)



集約型の都市構造とは、都市機能や日常的なサービス機能を集積させる拠点を位置づけ、さまざまな拠点を公共交通ネットワークでつなぐことで、暮らしやすさと市全域の発展を確保するものです。

土地利用ボリュームイメージ図



(3) 土地利用

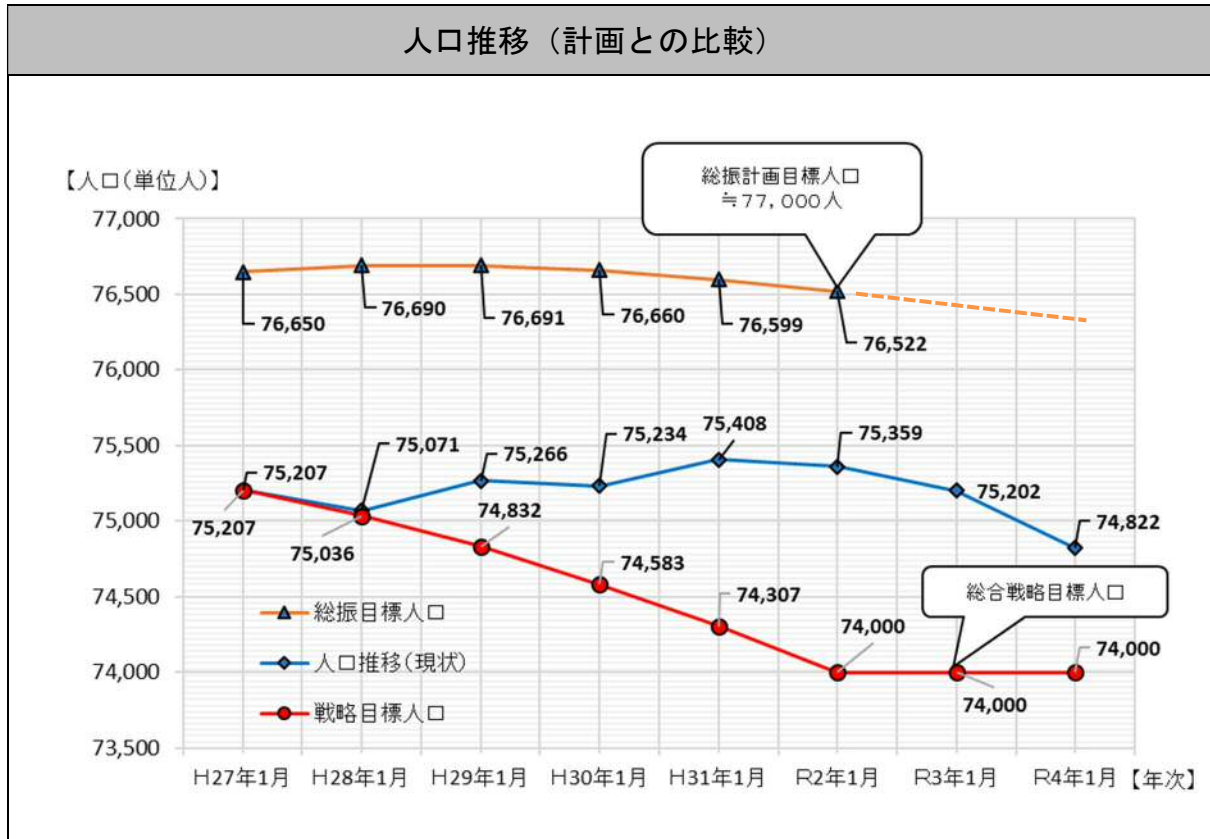
第五次土地利用基本構想の構成

<p>生活圏域とゾーンの設定</p> <p>■市域を既成市街地、坂田地区、日出谷地区、川田谷地区、加納地区のそれぞれ5圏域に分け集約型都市構造の形成を図る。</p>	
<p>歩いて暮らせるまちづくりの形成</p> <p>■生活圏域毎に都市機能や日常的なサービス機能を集積させる拠点を配置する。</p>	
<p>広域交通網をいかしたまちづくりの形成</p> <p>■上尾道路及び圏央道 I C の周辺に産業集積を図る複合開発エリアを配置すると共に広域幹線道路に沿道サービス軸を設定する。</p>	
<p>水辺と農が調和するまちづくりの形成</p> <p>■生物多様性の維持、自然環境の保全及び農業振興を図るため荒川、江川及び元荒川などを含む一帯を带状に緑・水辺軸として設定する。</p>	

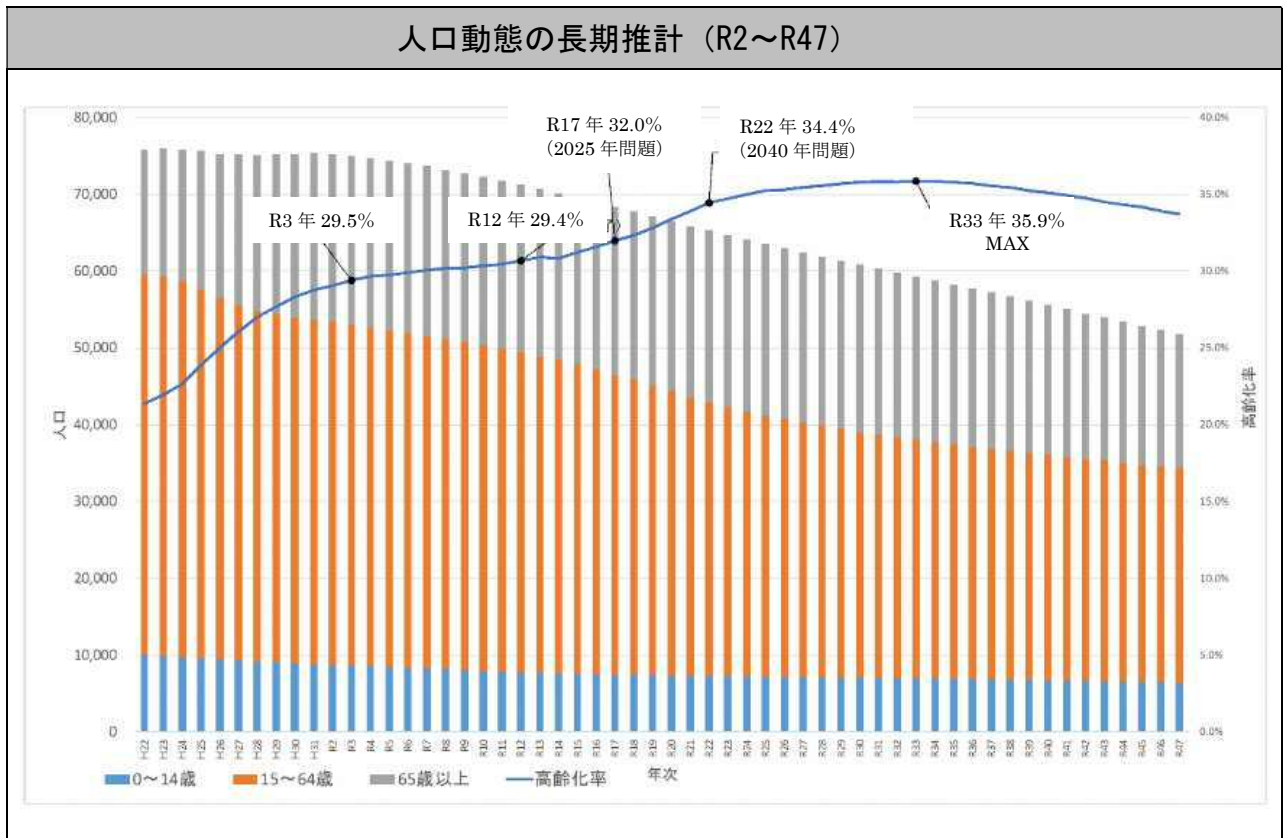
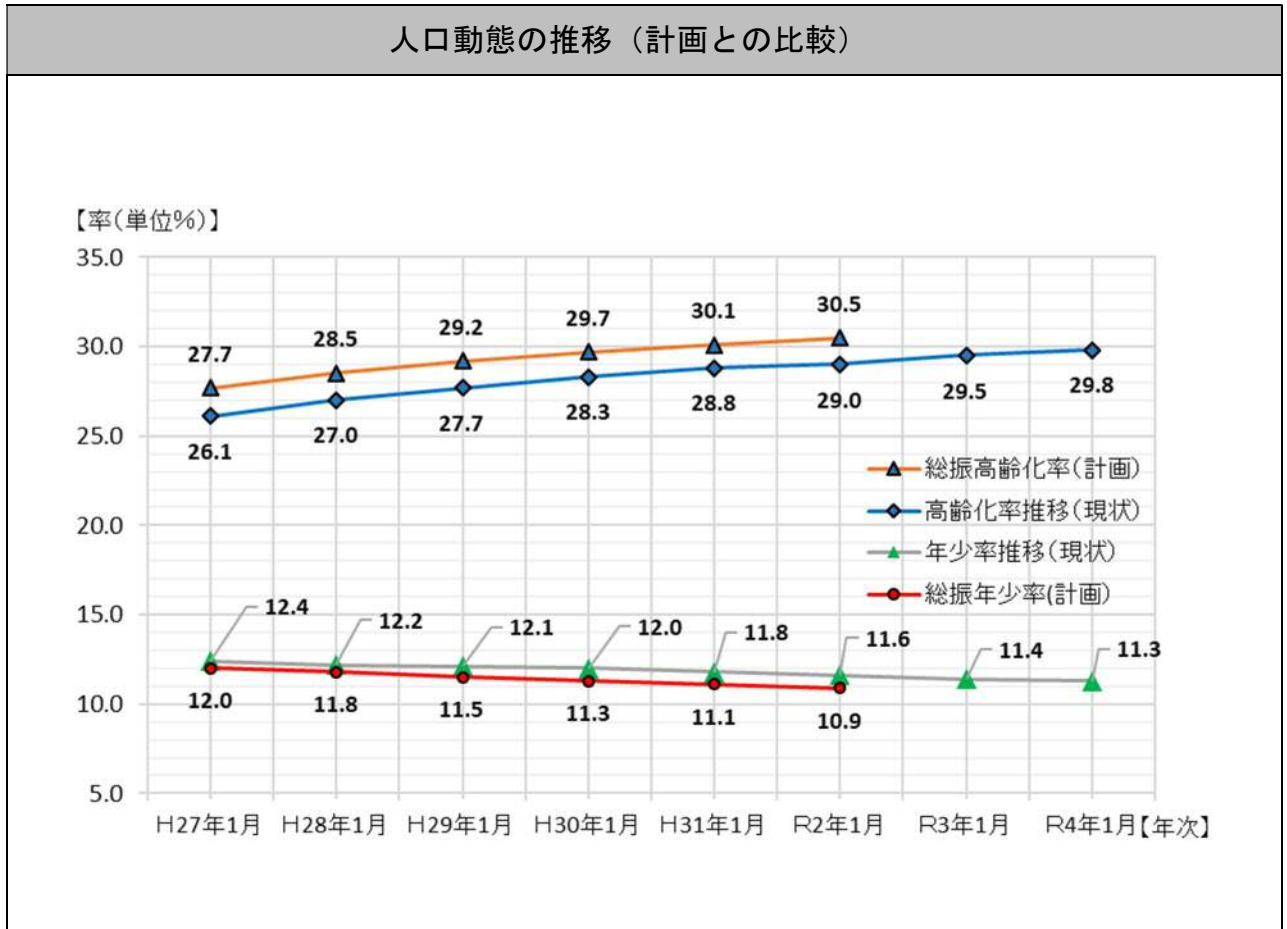
3. 第五次総合振興計画の進捗状況

(1) 人口の推移

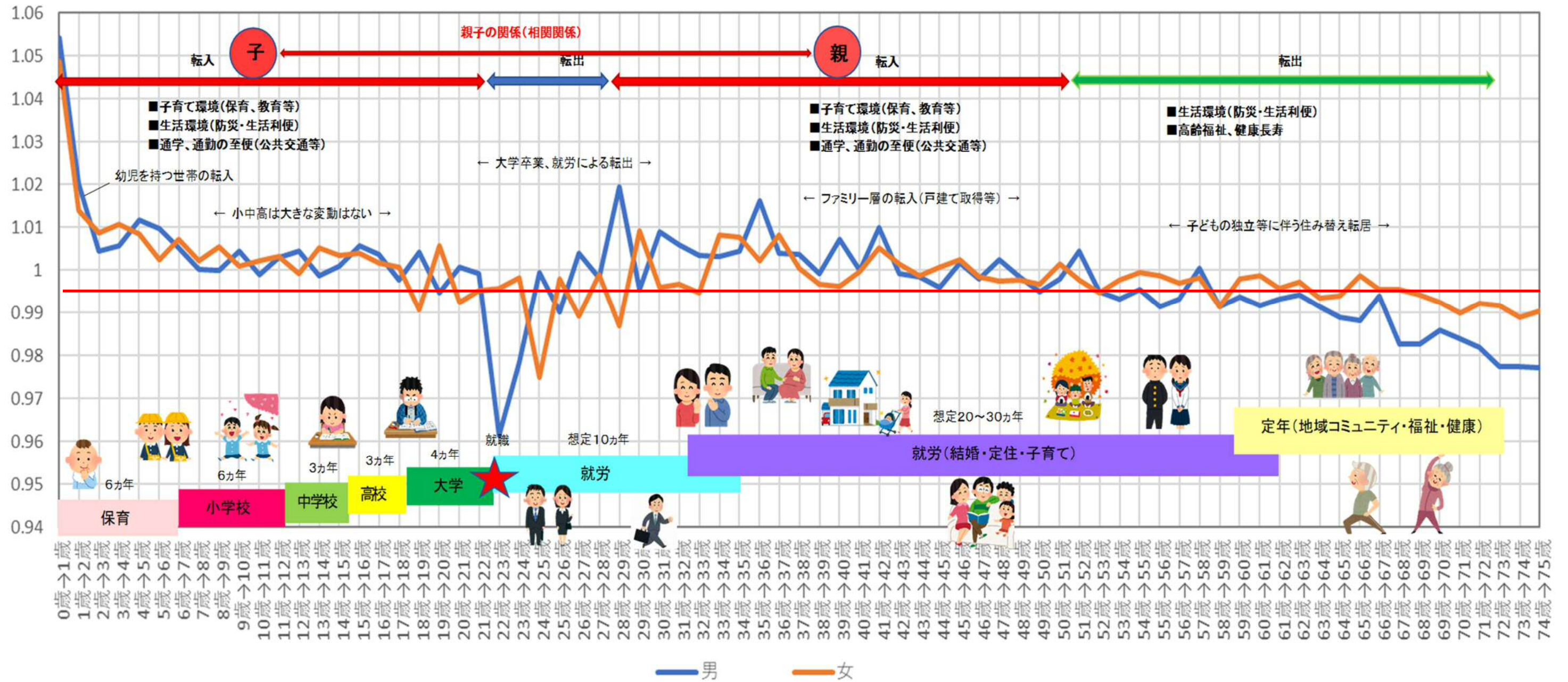
- ▶ 総合振興計画での目標人口 77,000 人に対し、現状、概ね 75,000 人で推移している。平成 28 年 3 月に策定した桶川市まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下、総合戦略)では、昨今の人口動態等を踏まえ、目標人口を 74,000 人とし、これを上回っている。



- ▶ 現状、高齢化率及び年少率を計画と比較すると、高齢化率は低く年少率は高い状態で推移しているが、緩やかに少子高齢化が進展している。



年齢別人口動向等（過去10年平均）



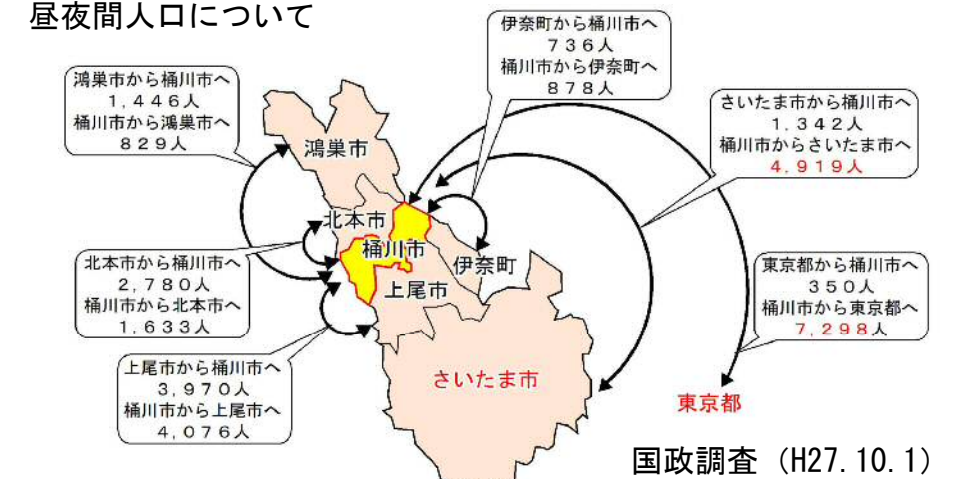
1歳毎年齢別人口増減

- 縦軸は、増減率を示す。1は人口増減が0の状態。1より高い場合は増加、1より低い場合は減少となる。
- 子育て世代（子どもと親）は増加傾向にある一方、就労時（22→23歳）から5年間は減少が顕著となる。
- 都心から通勤・通学の便が良く、土地区画整理事業（坂田地区・日出谷地区）により良好な都市基盤が形成されていることから子育て世代が転入超過の傾向にある。子育て世代にとって、ライフステージ（子育て、教育、就労など）を描きやすいことが増加の要因と考えられる。

地区別の人口増減

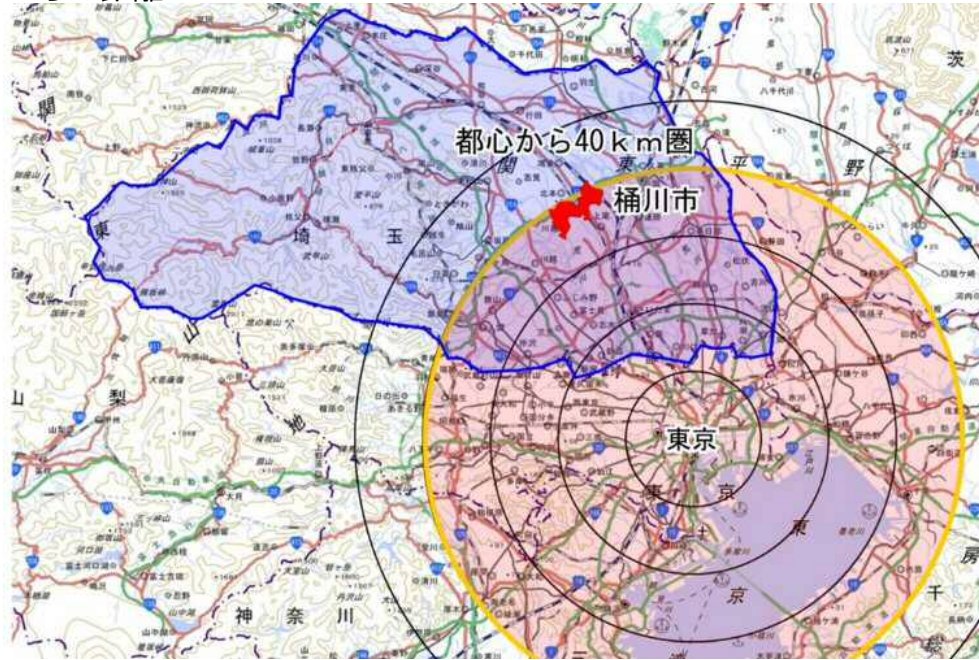
項目	人口		増減 (R3-H27)
	H27.4.1	R3.4.1	
駅東側周辺	12,605	12,614	9
駅西側周辺	16,416	16,148	-268
坂田地区	15,260	15,991	731
日出谷地区	16,815	17,273	458
加納地区	7,294	7,022	-272
川田谷地区	6,740	6,126	-614
合計	75,130	75,174	44

昼夜間人口について

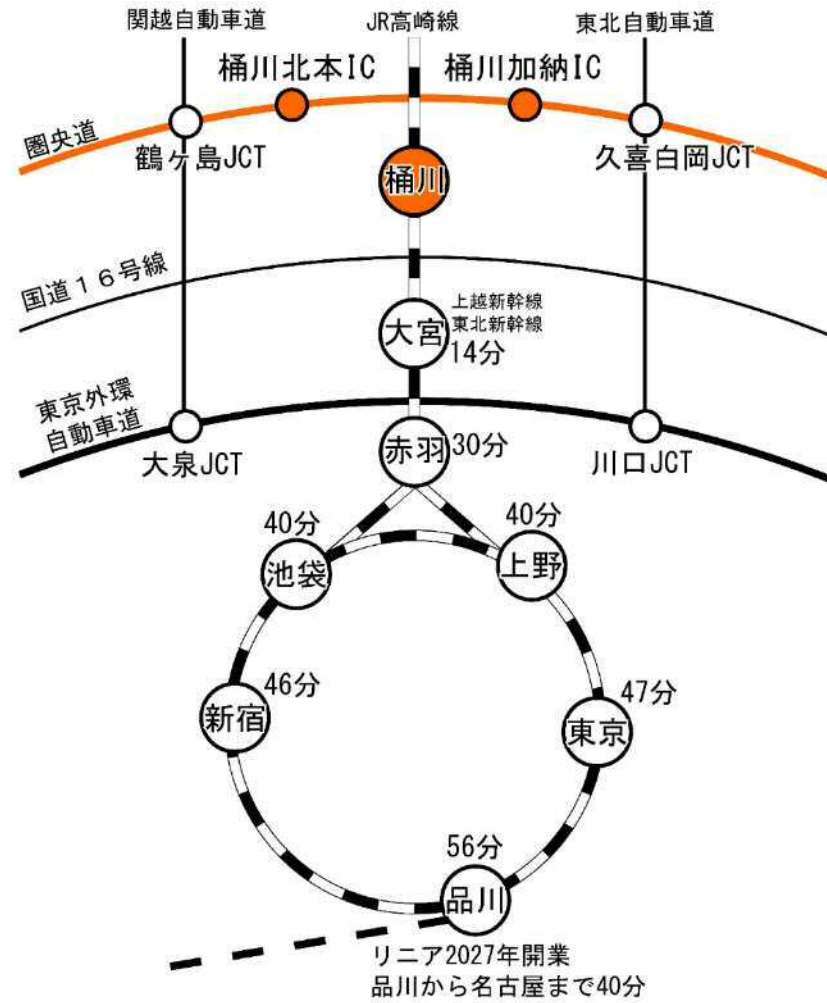


項目	流入人口	流出人口	夜間人口 (人) A	昼間人口 (人) B	比率 (%) B/A
平成27年	14,558	26,127	73,936	62,367	84.4

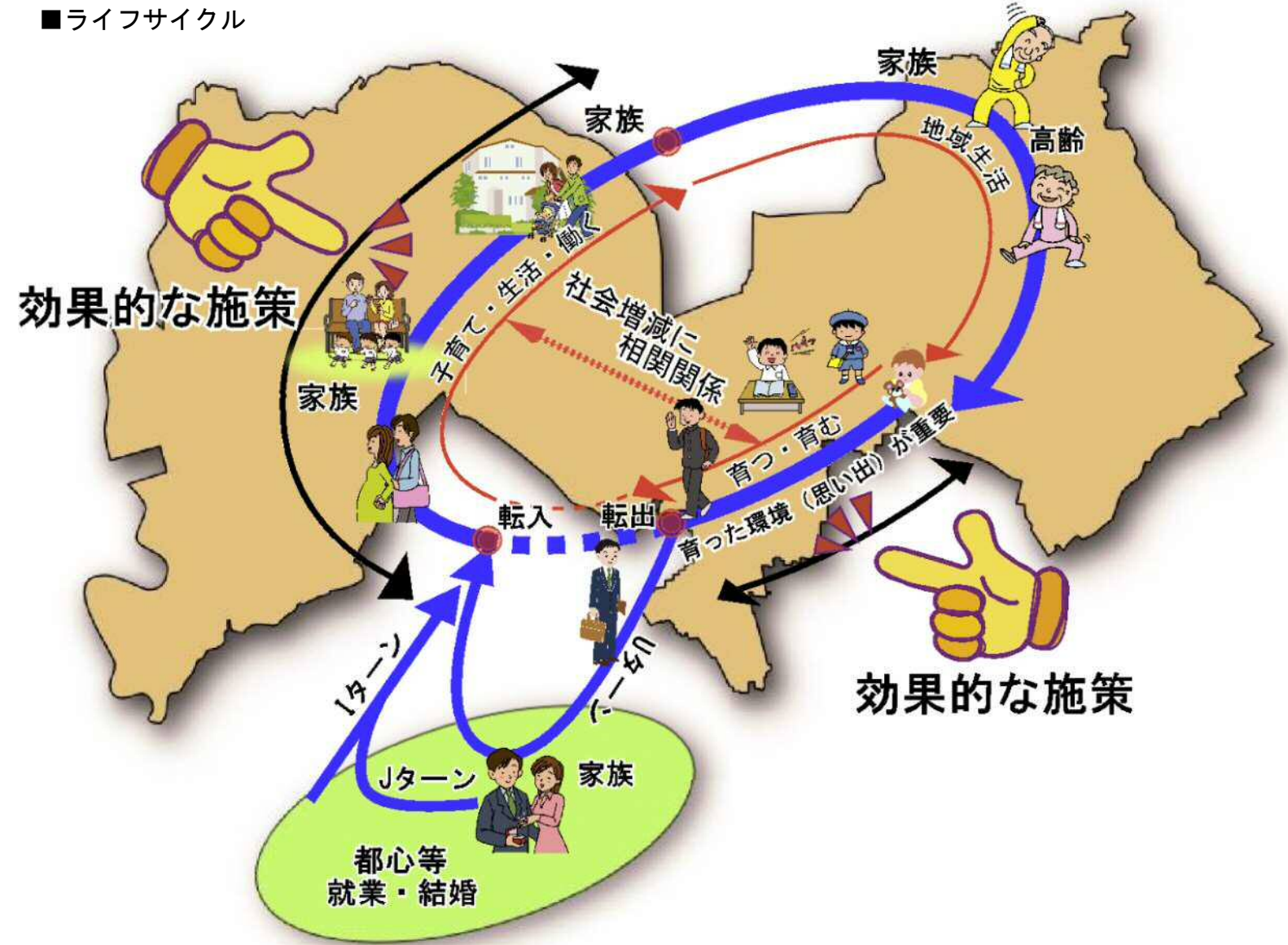
■都心からの距離



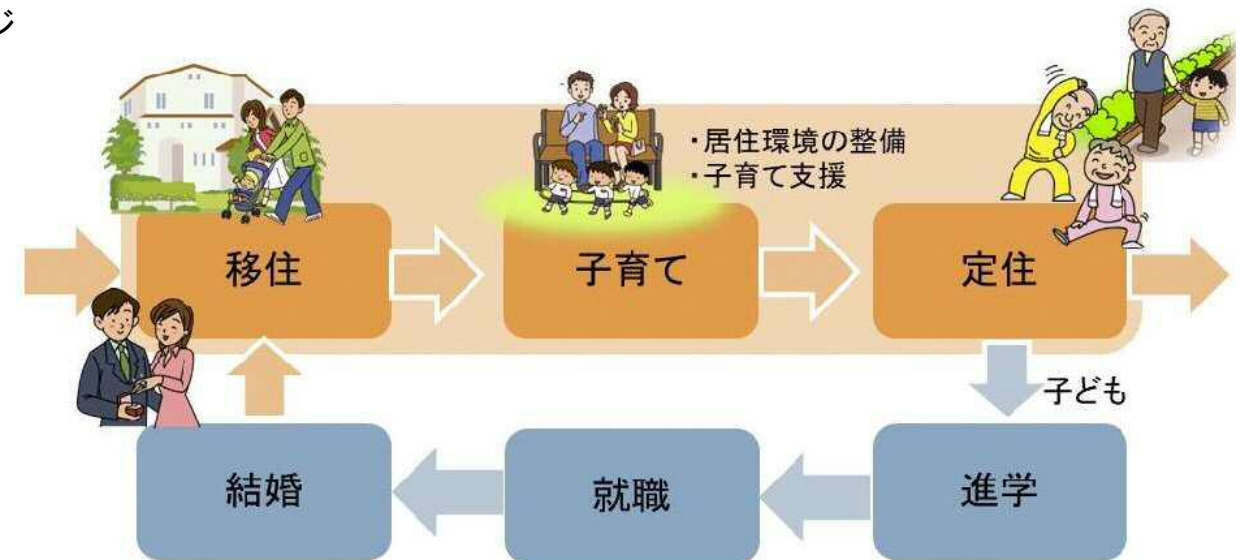
■鉄道網

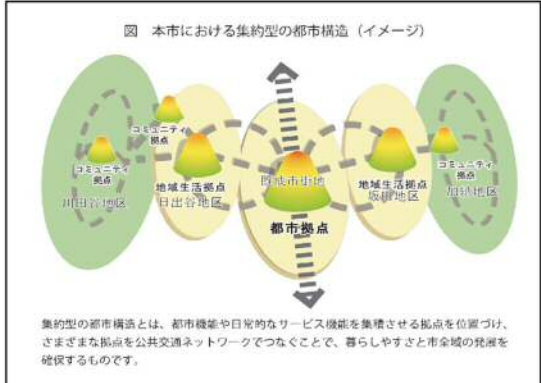
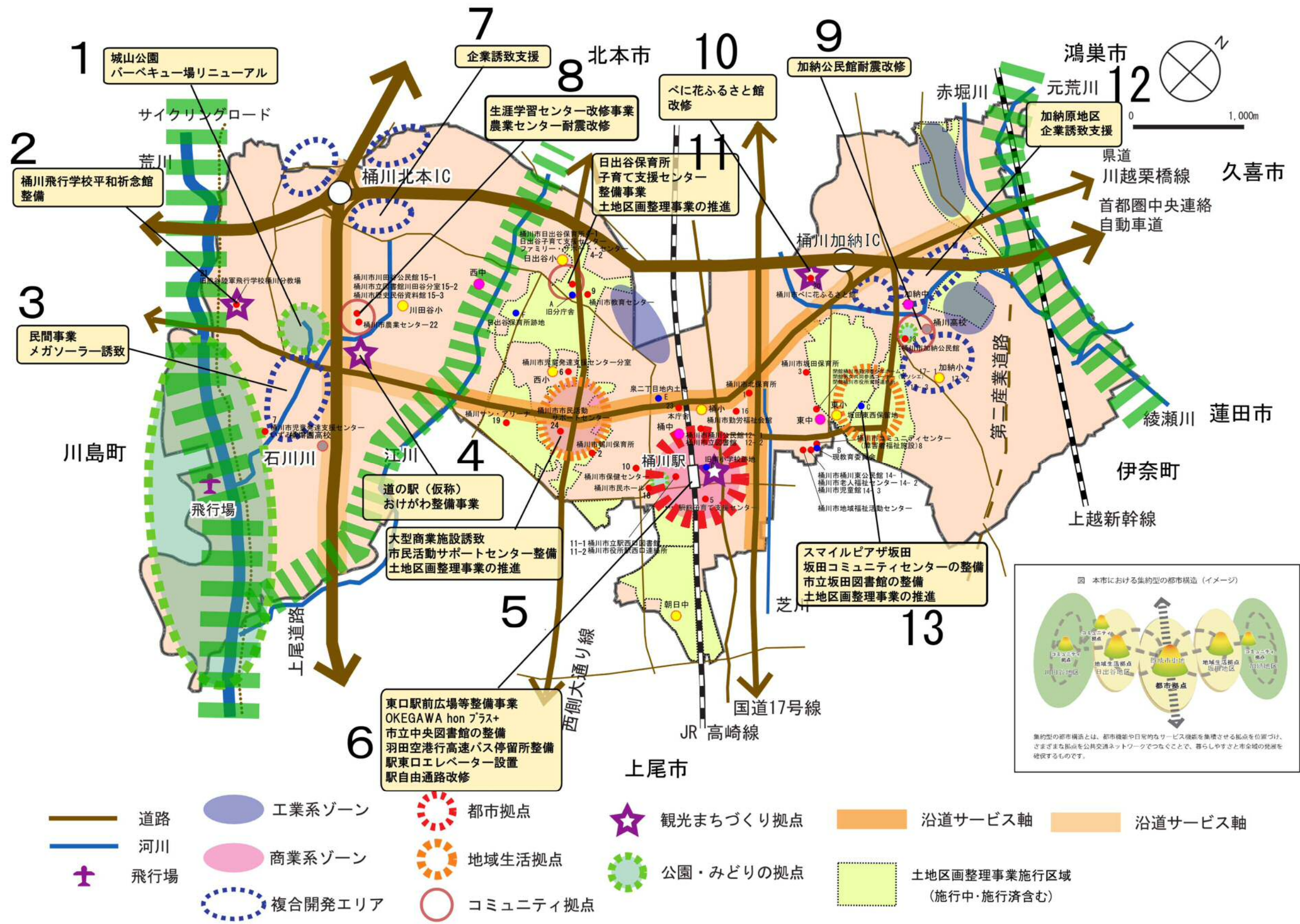


■ライフサイクル

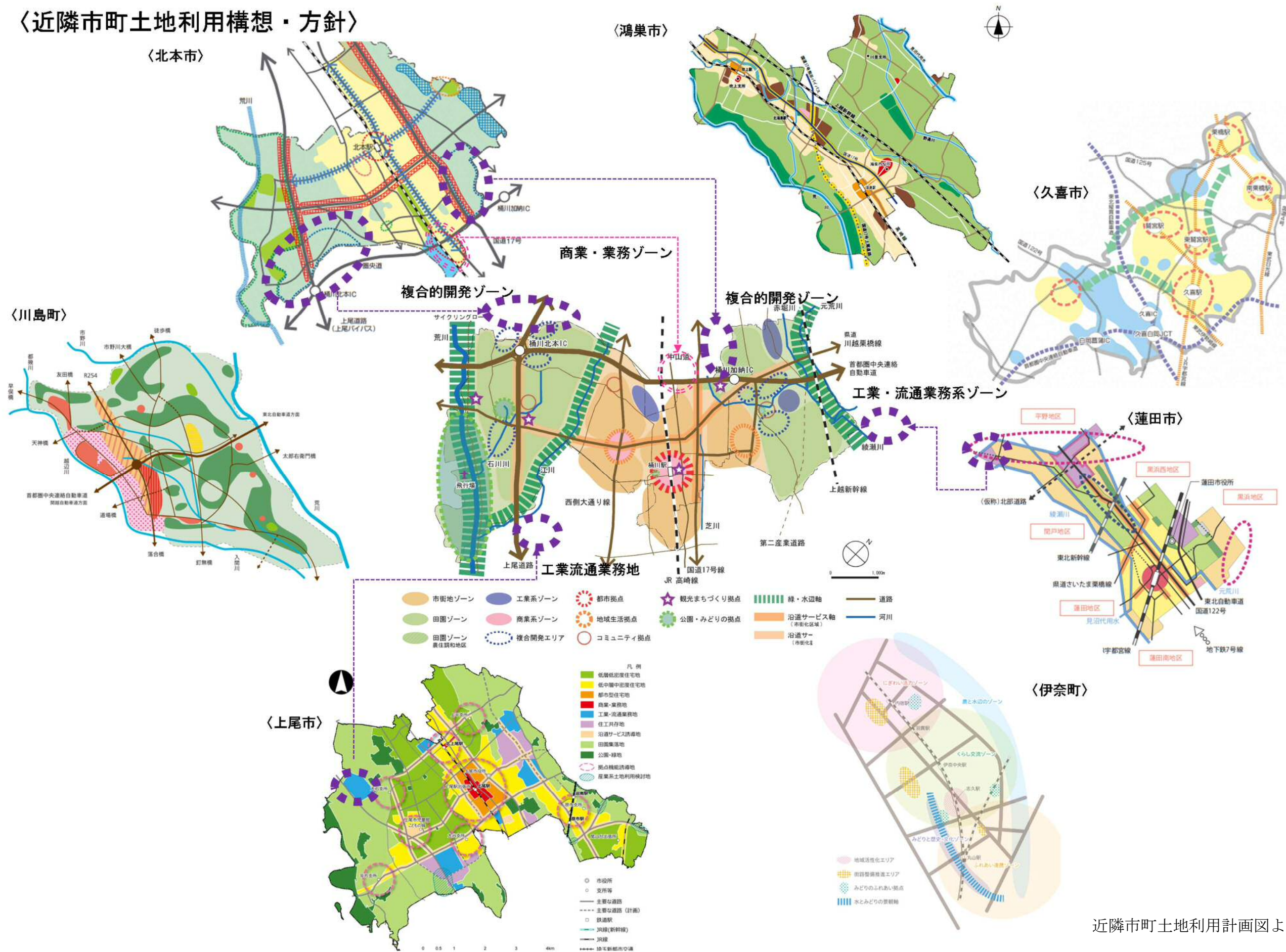


■ライフステージ

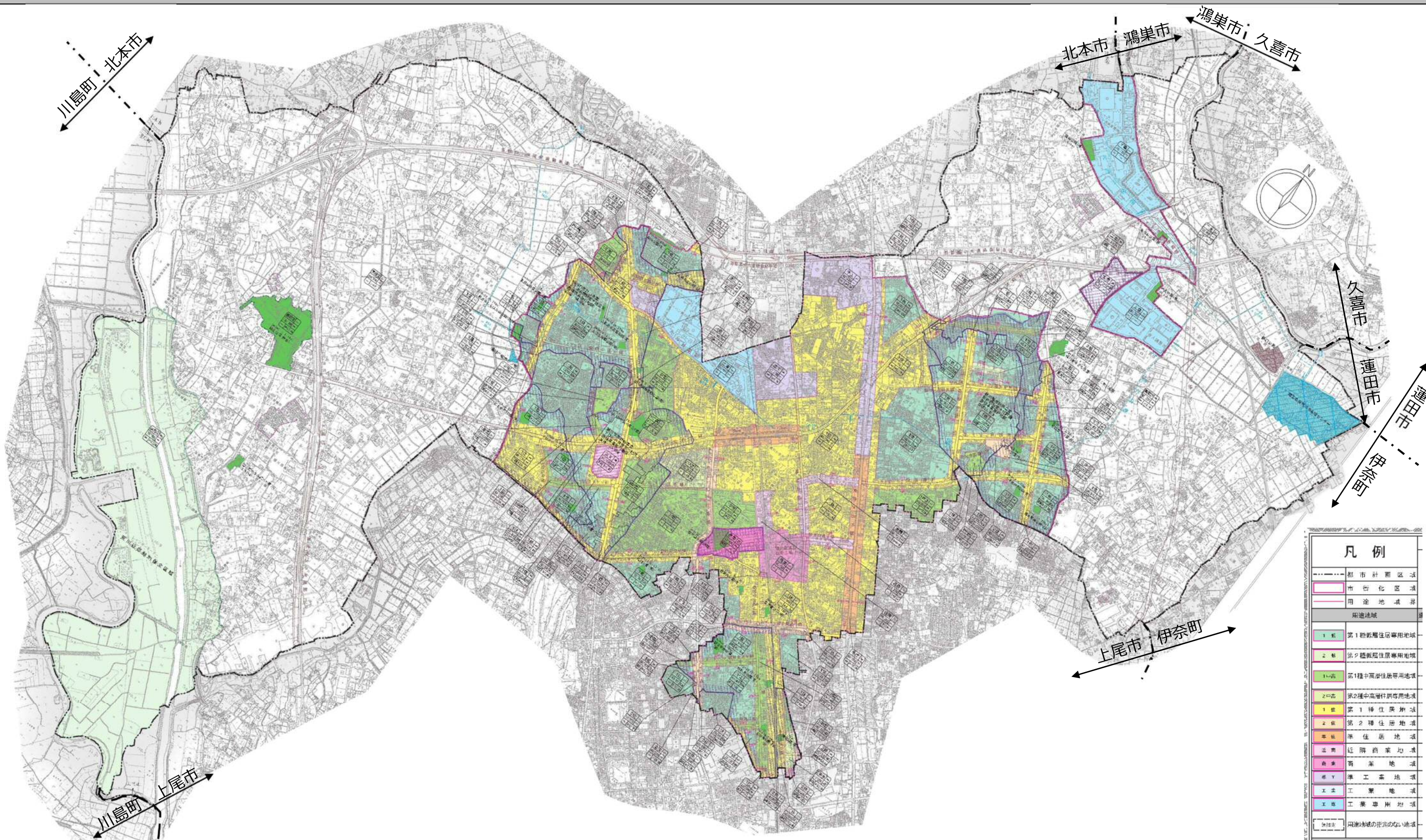




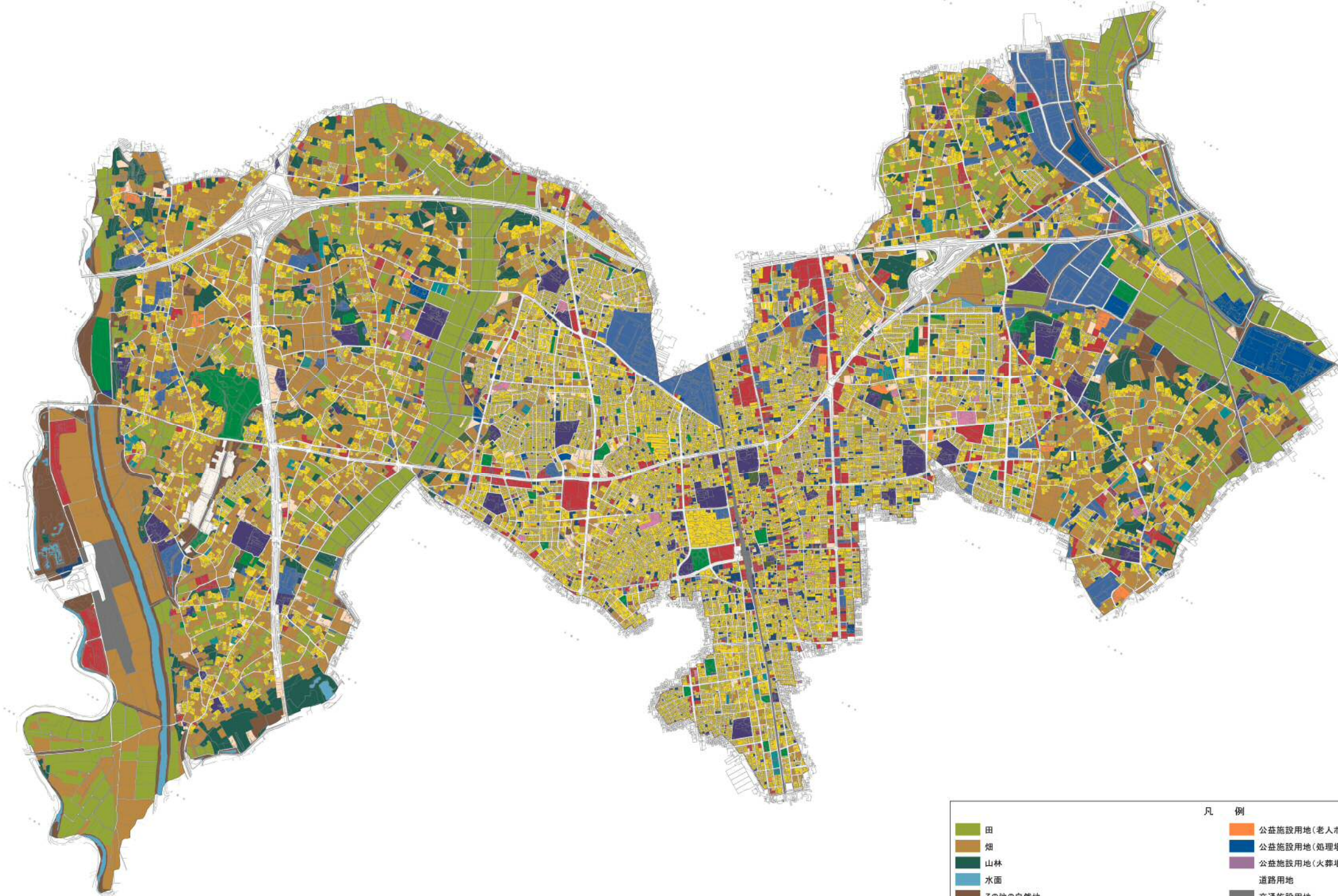
〈近隣市町土地利用構想・方針〉



〈参考〉桶川市都市計画図



〈参考〉桶川市土地利用現況図



土地利用現況図

凡 例	
田	公益施設用地(老人ホーム)
畑	公益施設用地(処理場、浄水場)
山林	公益施設用地(火葬場)
水面	道路用地
その他の自然地	交通施設用地
住宅用地	公共空地(公園・緑地、広場、運動場)
商業用地	公共空地(墓園)
工業用地	その他公的施設用地
農林漁業施設用地	その他の空地①
公益施設用地(幼稚園、保育所、病院、診療所、老人ホームを除く)	その他の空地②
公益施設用地(幼稚園、保育所)	その他の空地③
公益施設用地(病院、診療所)	その他の空地④
行政界	都市計画区域界
市街化区域界	

生活圏域 (基礎的コミュニティ)	拠点等の概要	土地利用構想の進捗状況(P11)
既成市街地	都市拠点	6 東口駅前広場等整備事業 6 OKEGAWA hon プラス+ ・市立中央図書館の整備 6 羽田空港行高速バス停留所の整備 6 駅東口エレベーターの設置 6 駅自由通路の改修
	観光まちづくり拠点	—
坂田地区	地域生活拠点	1 3 公民複合施設(スマイルピアザ坂田)の整備 ・坂田コミュニティセンターの整備 ・坂田図書館の整備 1 3 土地区画整理事業の推進(坂西完了)
日出谷地区	地域生活拠点	5 大型商業施設の誘致(ベニバナウォーク) 5 市民活動サポートセンターの整備 5 土地区画整理事業の推進(下東換地処分)
	コミュニティ拠点	1 1 日出谷保育所、子育て支援センターの整備 1 1 土地区画整理事業の推進(上南工事完了)
加納地区	コミュニティ拠点	9 加納公民館の耐震改修整備
	観光まちづくり拠点	1 0 べに花ふるさと館のリニューアル
	複合開発エリア	1 2 企業誘致支援(加納原地区2021年操業)
	公園・みどりの拠点	—
川田谷地区	コミュニティ拠点	8 農業センターのリニューアル(工事) 8 生涯学習センター改修事業(設計)
	観光まちづくり拠点	4 道の駅(仮称)おけがわ整備事業(公募準備) 2 桶川飛行学校平和祈念館の整備
	複合開発エリア	7 企業誘致支援(桶北IC地権者協議会設立) 3 メガソーラー(城山公園南側)
	公園・みどりの拠点	1 城山公園バーベキュー場のリニューアル

(2) 基本計画に掲げる施策の達成状況

- ▶ 施策の大綱毎の達成状況(指標)は次のとおりとなっている。

(令和2年度末現在)

施策の大綱	達成/全指標	達成率
1 だれもが主役の桶川をつくる【参画・協働】	0/8	0%
2 生きる力を育み 次代に繋げる桶川をつくる【教育・文化】	6/21	29%
3 共に支え合いいきいきと暮らせる桶川をつくる【健康・福祉】	11/23	48%
4 環境にやさしく 安心・安全に住み続けられる桶川をつくる【市民生活】	14/26	54%
5 みどりと調和した暮らしやすい桶川をつくる【みどり・都市基盤】	10/23	43%
6 にぎわいと活力ある桶川をつくる【産業】	4/16	25%
7 計画的で将来を見据えた桶川をつくる【行財政運営】	3/12	25%
合計	48/129	37%

(3) 現状と課題

- ▶ 本市の立地特性及び施策の達成状況等を踏まえると現状と課題は次のとおりとなる。

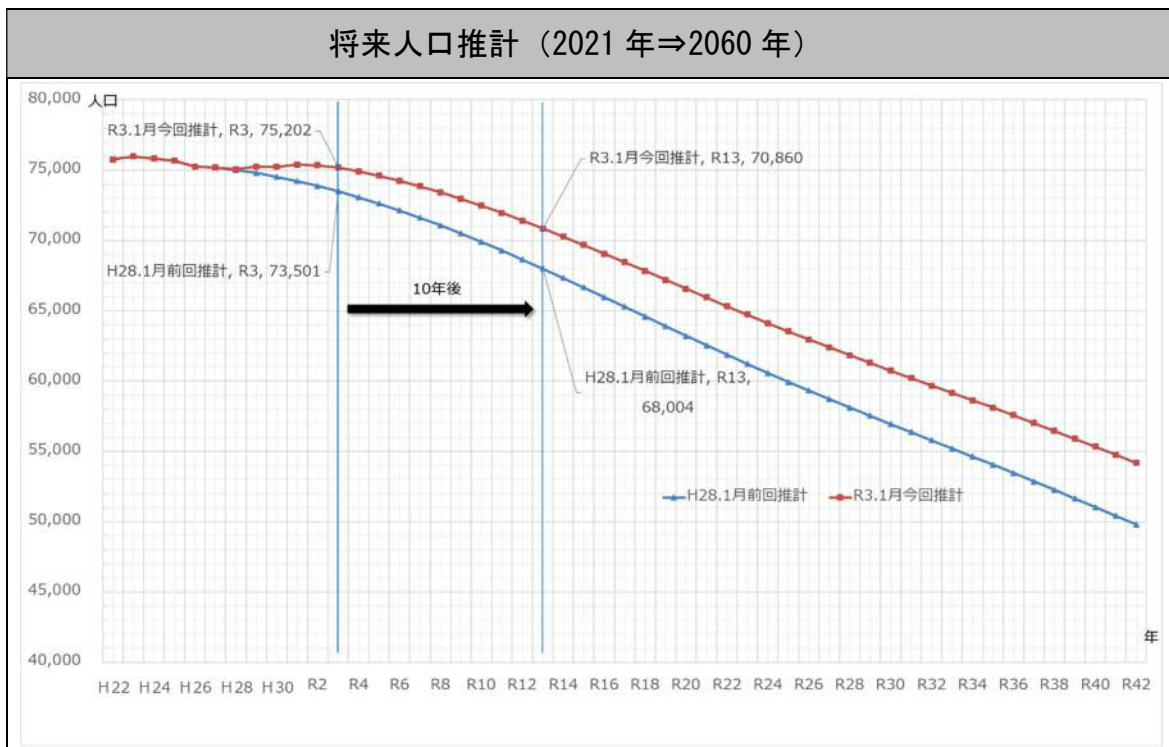
項目	プラス要因	マイナス要因
内部環境	住宅都市【強み】 (生活利便)	産業振興【弱み】 (企業誘致、観光)
外部環境	広域圏化【機会】 (圏央道 I C 開設)	人口減少【脅威】 (少子高齢化)



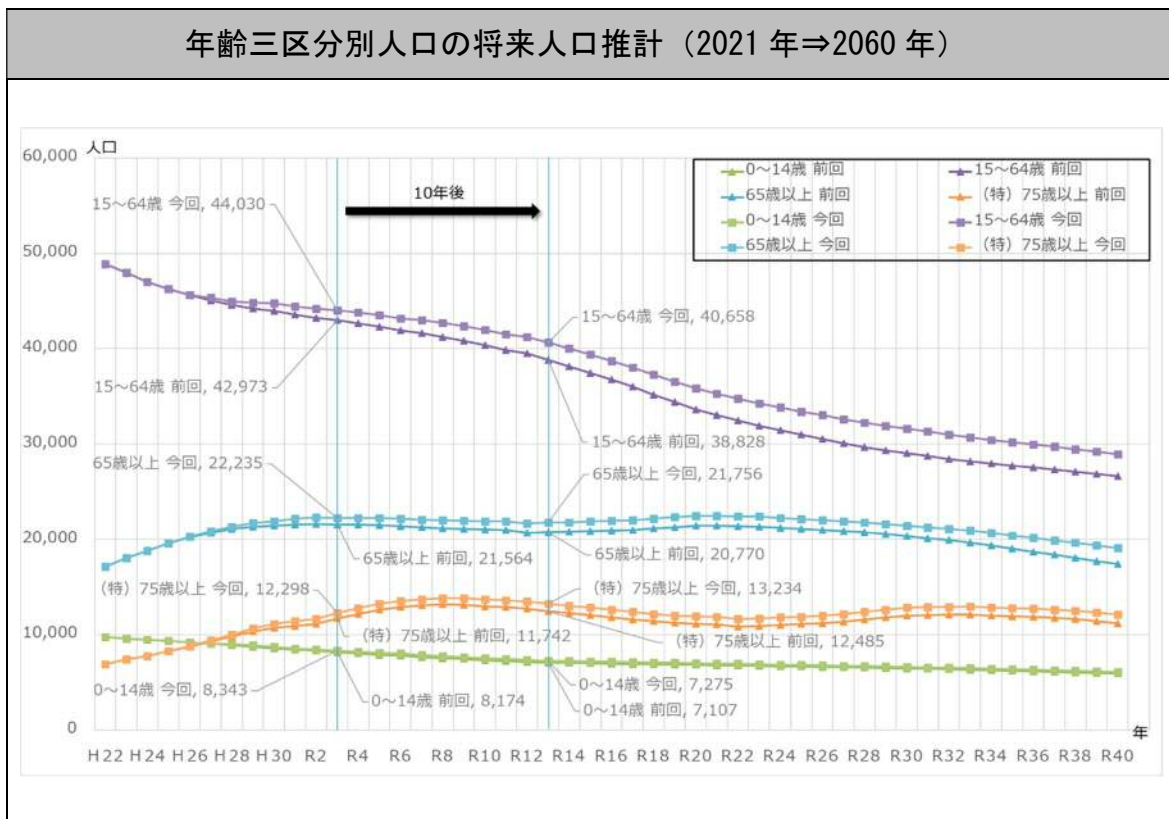
4. (仮称) 第六次総合振興計画の策定について

(1) 将来人口

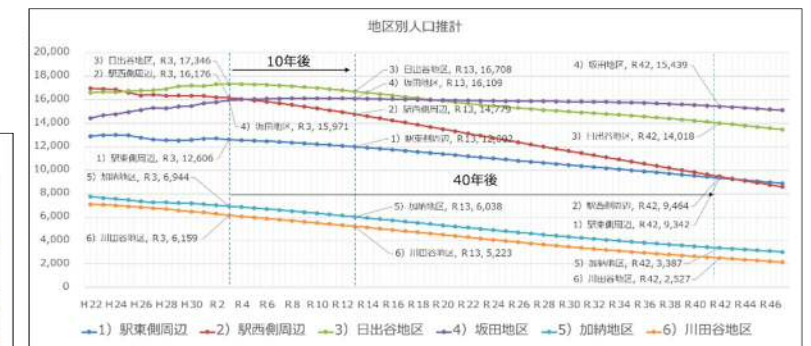
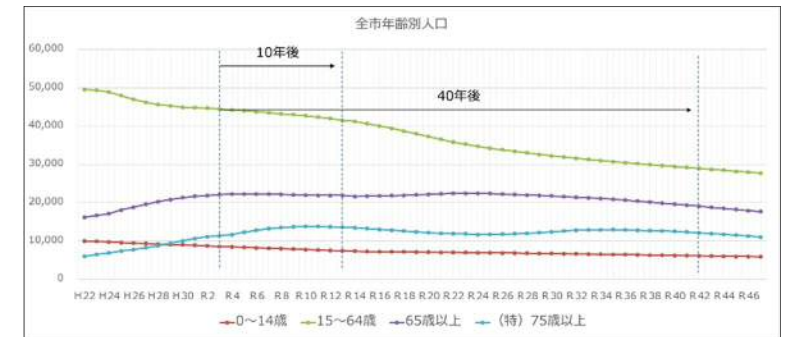
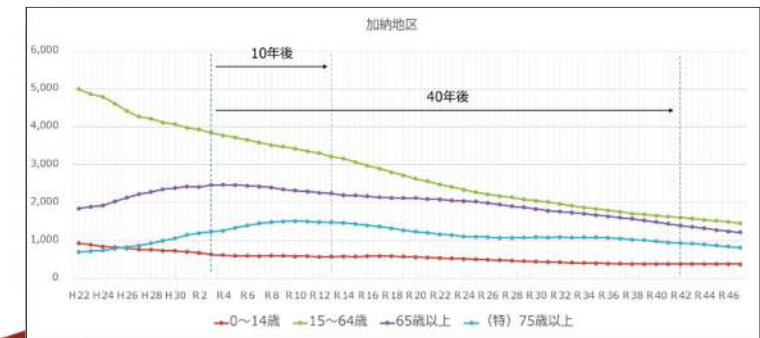
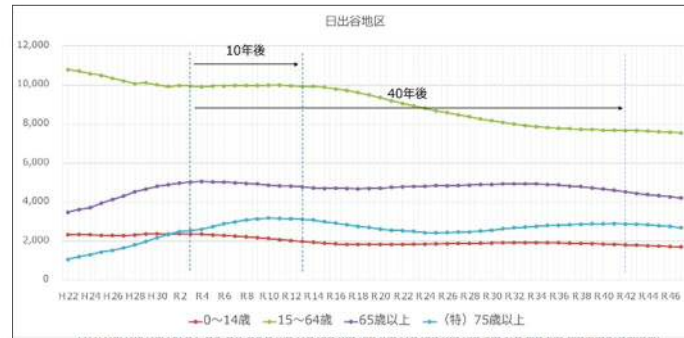
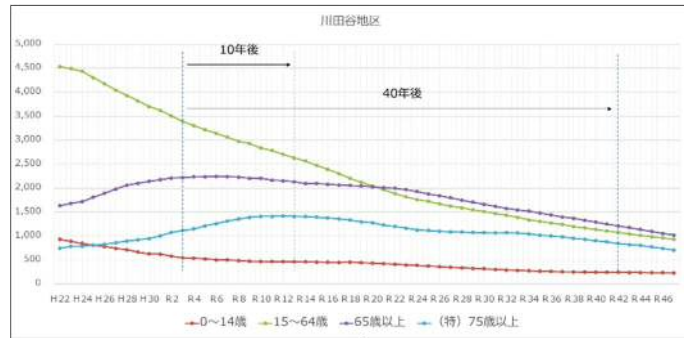
- ▶ 将来人口推計(単純推計)について、時点更新を行うと次の通りとなり、前回推計(平成27年)に比べ、減少は穏やかになっています。



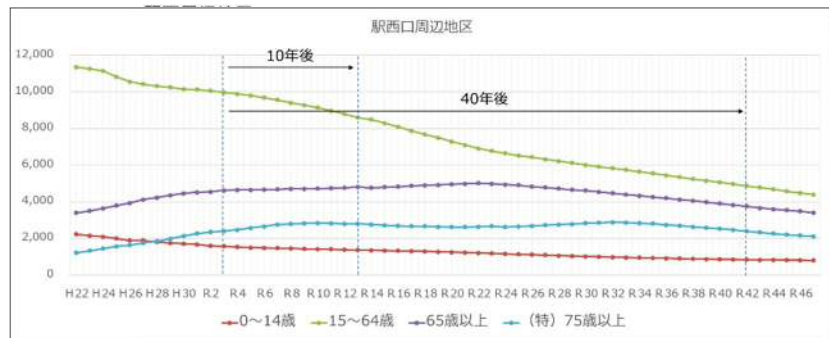
- ▶ 年齢三区分別人口推計(単純推計)は次の通りとなり、いずれも前回推計(平成27年)に比べ、減少は穏やかになっています。



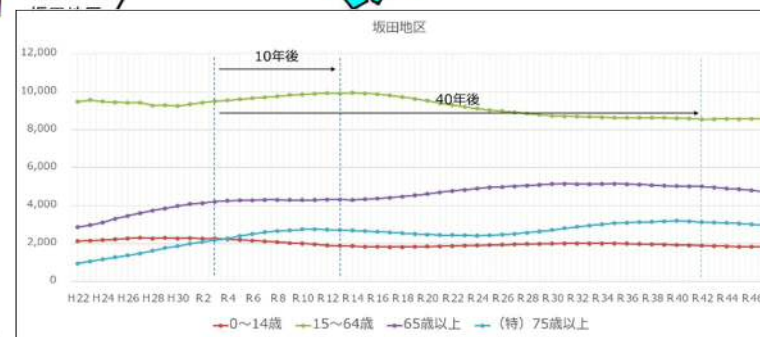
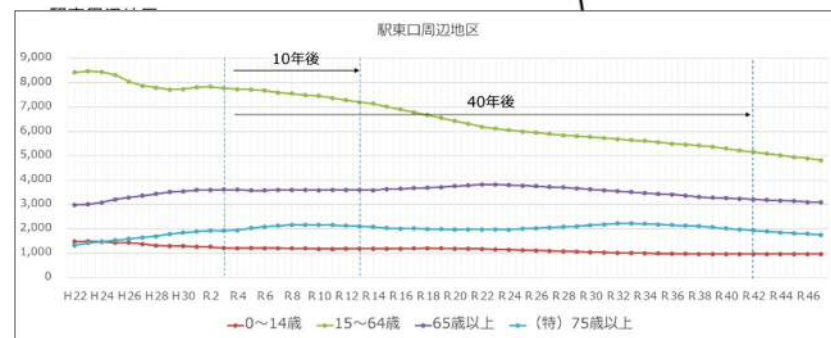
地区別人口推計



推計値
R13 (10年後)
14,779人 8.6%減
R42 (40年後)
9,464人 41.5%減



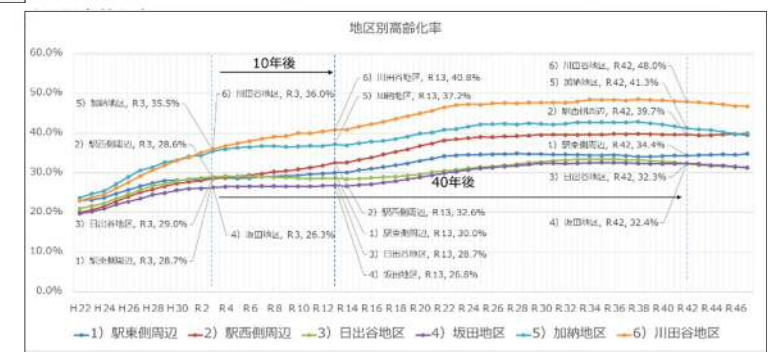
推計値
R13 (10年後)
12,002人 4.8%減
R42 (40年後)
9,342人 25.9%減



推計値
R13 (10年後)
16,109人 0.9%増
R42 (40年後)
15,439人 3.3%減

土地区画整理事業施行区域
(施行中・施行済含む)

下東は、除外地区(地区計画)を含む。



■地区別、年代別人口推計結果（現状からの増減数・変化率 R3 → R22）

		1. 駅東側	2. 駅西側	3. 日出谷	4. 坂田	5. 加納	6. 川田谷	全市
未就学児	R3	537	711	1,019	959	234	198	3,658
	R22	539	544	814	864	210	160	3,130
	増減率	0.4%	-23.5%	-20.1%	-9.9%	-10.2%	-19.4%	-14.4%
小学生	R3	518	611	1,015	973	272	259	3,648
	R22	474	488	762	751	243	185	2,904
	増減率	-8.5%	-20.1%	-24.9%	-22.9%	-10.7%	-28.4%	-20.4%
中学生	R3	242	376	481	485	198	147	1,929
	R22	235	264	390	376	134	100	1,498
	増減率	-3.0%	-29.9%	-18.9%	-22.5%	-32.2%	-32.2%	-22.3%
高校生	R3	292	449	497	483	187	182	2,090
	R22	234	279	412	383	140	103	1,551
	増減率	-20.0%	-37.8%	-17.1%	-20.8%	-25.0%	-43.4%	-25.8%
大学生等 (19-22歳)	R#	467	644	641	582	260	252	2,846
	R22	295	378	627	587	137	106	2,130
	増減率	-36.8%	-41.3%	-2.2%	0.8%	-47.3%	-57.8%	-25.2%
20歳代 (上記と重複)	R3	1,435	1,638	1,477	1,492	558	532	7,132
	R22	965	1,012	1,616	1,619	333	266	5,812
	増減率	-32.7%	-38.2%	9.4%	8.5%	-40.3%	-50.0%	-18.5%
30歳代	R3	1,409	1,735	1,893	1,848	651	521	8,157
	R22	1,221	1,341	1,601	1,877	397	303	6,741
	増減率	-13.3%	-22.7%	-19.7%	1.6%	-39.1%	-41.8%	-17.4%
40歳代	R3	1,837	2,310	2,705	2,592	977	809	11,230
	R22	1,501	1,523	1,719	1,851	470	382	7,446
	増減率	-18.3%	-34.1%	-36.4%	-28.6%	-51.9%	-52.8%	-33.7%
50歳代	R3	1,872	2,561	2,140	2,000	906	805	10,284
	R22	1,370	1,644	2,214	2,077	628	467	8,400
	増減率	-26.8%	-35.8%	3.5%	3.9%	-30.7%	-41.9%	-18.3%
60歳代前半 (~64歳)	R3	754	1,005	840	794	437	421	4,251
	R22	764	924	1,241	1,237	429	312	4,908
	増減率	1.4%	-8.1%	47.7%	55.8%	-1.8%	-25.8%	15.5%
前期高齢者 (65~74歳)	R3	1,684	2,219	2,486	2,028	1,227	1,104	10,748
	R22	1,853	2,381	2,253	2,319	922	797	10,525
	増減率	10.0%	7.3%	-9.4%	14.4%	-24.8%	-27.8%	-2.1%
後期高齢者 (75歳~)	R3	1,928	2,406	2,545	2,174	1,239	1,115	11,407
	R22	1,977	2,628	2,536	2,444	1,166	1,201	11,953
	増減率	2.6%	9.2%	-0.3%	12.4%	-5.9%	7.7%	4.8%
総数	R3	12,606	16,176	17,346	15,971	6,944	6,159	75,202
	R22	11,197	13,123	15,683	15,929	5,110	4,294	65,337
	増減率	-11.2%	-18.9%	-9.6%	-0.3%	-26.4%	-30.3%	-13.1%
高齢化率	R3	28.7%	28.6%	29.0%	26.3%	35.5%	36.0%	29.5%
	R22	34.2%	38.2%	30.5%	29.9%	40.9%	46.5%	34.4%

■全市の動向

属性	全市の動向と課題
未就学児 (0~6歳)	・「全市」では14.4%の減少となり、「2駅西側」地区(-23.5%)、「3日出谷」地区(-20.1%)の減少が顕著である。中長期的には、保育所、幼稚園などの子育て関連施設が官民間問わず供給過多となる可能性が高い。
小学生 (7~12歳)	・「全市」では20.4%の減少となり、「3日出谷」地区(-24.9%)、「6川田谷」地区(-28.4%)の減少が顕著である。学校によっては、児童数(クラス数)が大きく減少することが見込まれる。
中学生 (13~15歳)	・「全市」では22.3%の減少となり、「5加納」地区(-32.2%)、「6川田谷」地区(-32.2%)の減少が顕著である。学校によっては、生徒数(クラス数)が大きく減少することが見込まれる。
高校生 (16~18歳)	・「全市」では25.8%の減少となり、「2駅西側」地区(-37.8%)、「6川田谷」地区(-43.4%)の減少が顕著である。 ・高校は、通学圏が市外にわたることから、近隣都市の人口変動の影響を受ける。
大学生等 (19-22歳)	・「全市」では25.2%の減少となり、「5加納」地区(-47.3%)、「6川田谷」地区(-57.8%)の減少が顕著である。
20歳代 (上記と重複)	・「全市」では18.5%の減少となり、「5加納」地区(-40.3%)、「6川田谷」地区(-50.0%)の減少が顕著である。 ・就労に伴い転出超過となる。
30歳代	・「全市」では17.4%の減少となり、「5加納」地区(-39.1%)、「6川田谷」地区(-41.8%)の減少が顕著である。 ・住民税など税収の減少が懸念される。
40歳代	・「全市」では33.7%の減少となり、全世代で最も減少する。「5加納」地区(-51.9%)、「6川田谷」地区(-52.8%)の減少が顕著である。 ・住民税など税収の減少が懸念される。
50歳代	・「全市」では18.3%の減少となり、「2駅西側」地区(-35.8%)、「6川田谷」地区(-41.9%)の減少が顕著である。
60歳代前半 (~64歳)	・第二次ベビーブーム世代(人口ボリュームゾーン)が60歳代となるため、「全市」では15.5%の増加となる。「3日出谷」地区(47.7%)、「4坂田」地区(55.8%)の増加が顕著である。 ・社会保障経費の増加要因となる。
前期高齢者 (65~74歳)	・「全市」では2.1%の減少となり、「5加納」地区(-24.8%)、「6川田谷」地区(-27.8%)の減少が顕著である。
後期高齢者 (75歳~)	・「全市」では4.8%の増加となり、「2駅西側」地区(9.2%)、「4坂田」地区(12.4%)の増加が顕著である。 ・社会保障経費の増加要因となる
総数・高齢化率	・総数(総人口)は、「全市」では13.1%の減少(75,202人→65,337人)となるが、60歳代から増加傾向となり、高齢化が進む。高齢化率は、「全市」34.4%(R3から4.9ポイント増)となる。「5加納」地区(40.9%)、「6川田谷」地区(46.5%)の増加が顕著である。

- 2割以上の増加
- 1割以上の増加
- 1割以上の減少
- 2割以上の減少

<地区の動向(特に配慮すべき事項)>

6. 川田谷地区
・地区人口は、30.3%減少し、高齢化率は36.0%から46.5%と10.5ポイント増加し、最も高くなる。

3. 日出谷地区
・地区人口は、9.6%減少し、高齢化率は29.0%から30.5%となる。
・土地区画整理事業を推進した新市街地のため、人口動態の変化は大きくない。

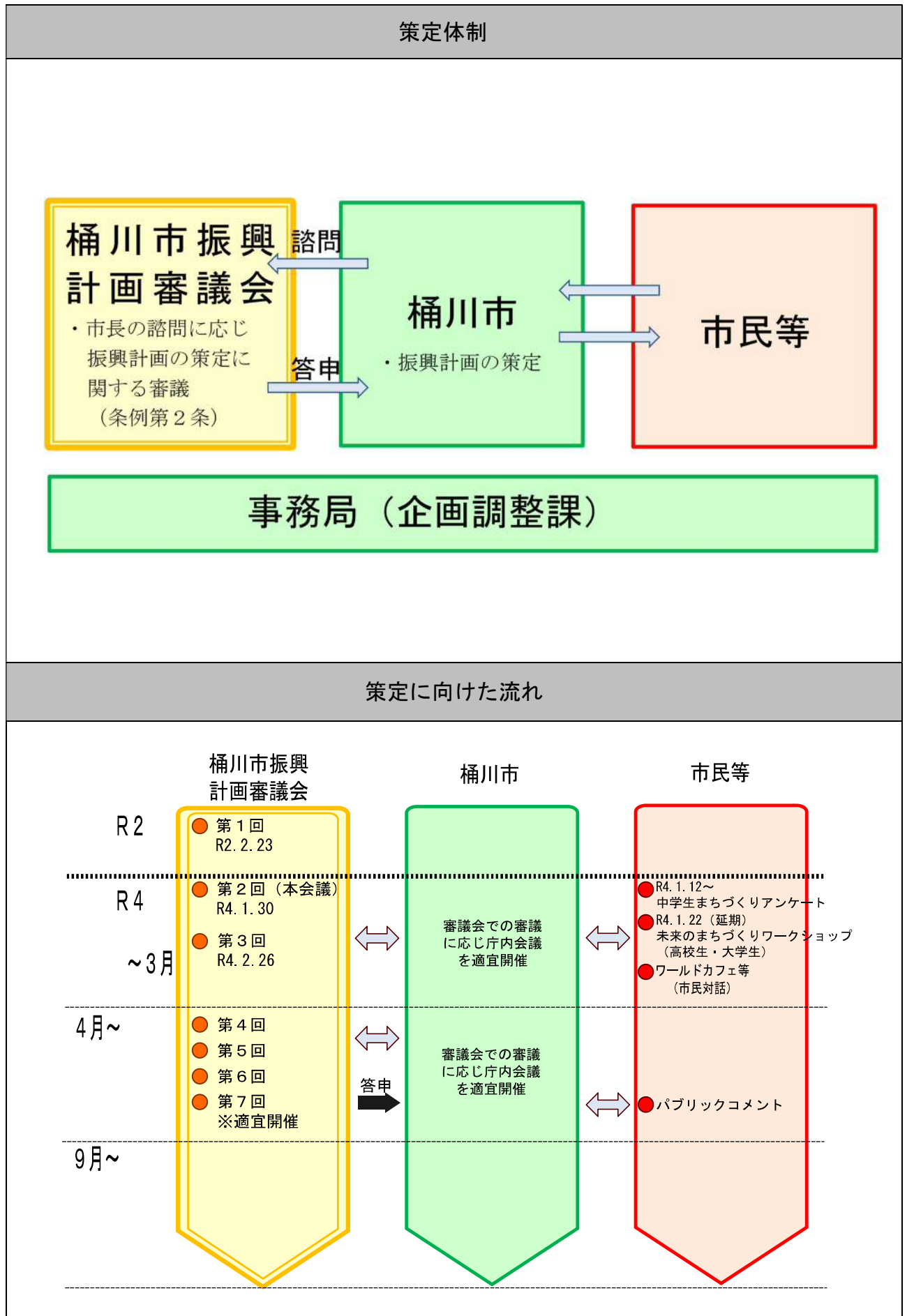
2. 駅西側地区
・地区人口は、18.9%減少する。高齢化率は28.6%から38.2%となる。
・既成市街地のため、面的に高齢化が進む。

1. 駅東側地区
・地区人口は、11.2%減少し、高齢化率は28.7%から34.2%となる。
・既成市街地のため、面的に高齢化が進む。

4. 坂田地区
・地区人口は、0.3%減少し、高齢化率は26.3%から29.9%となる。
・土地区画整理事業を推進した新市街地のため、人口動態の変化は大きくない。

5. 加納地区
・地区人口は、26.4%減少し、高齢化率は35.5%から40.9%と大きく増加する。

(2) 策定体制と策定に向けた流れ



桶川市第六次総合振興計画
市民意識調査
報告書—別冊版—
経年変化資料

令和2年12月

目 次

1. 桶川市の住みやすさや生活環境、定住意向について……………	1
2. 土地利用と都市整備の方向性について……………	7
3. 協働のまちづくりについて……………	9
4. 子育て支援について……………	10
5. 高齢者福祉の充実について……………	12
6. 市政情報への関心度及び住民の評価について……………	14
7. 10年後の桶川市 ～将来都市像について～……………	17

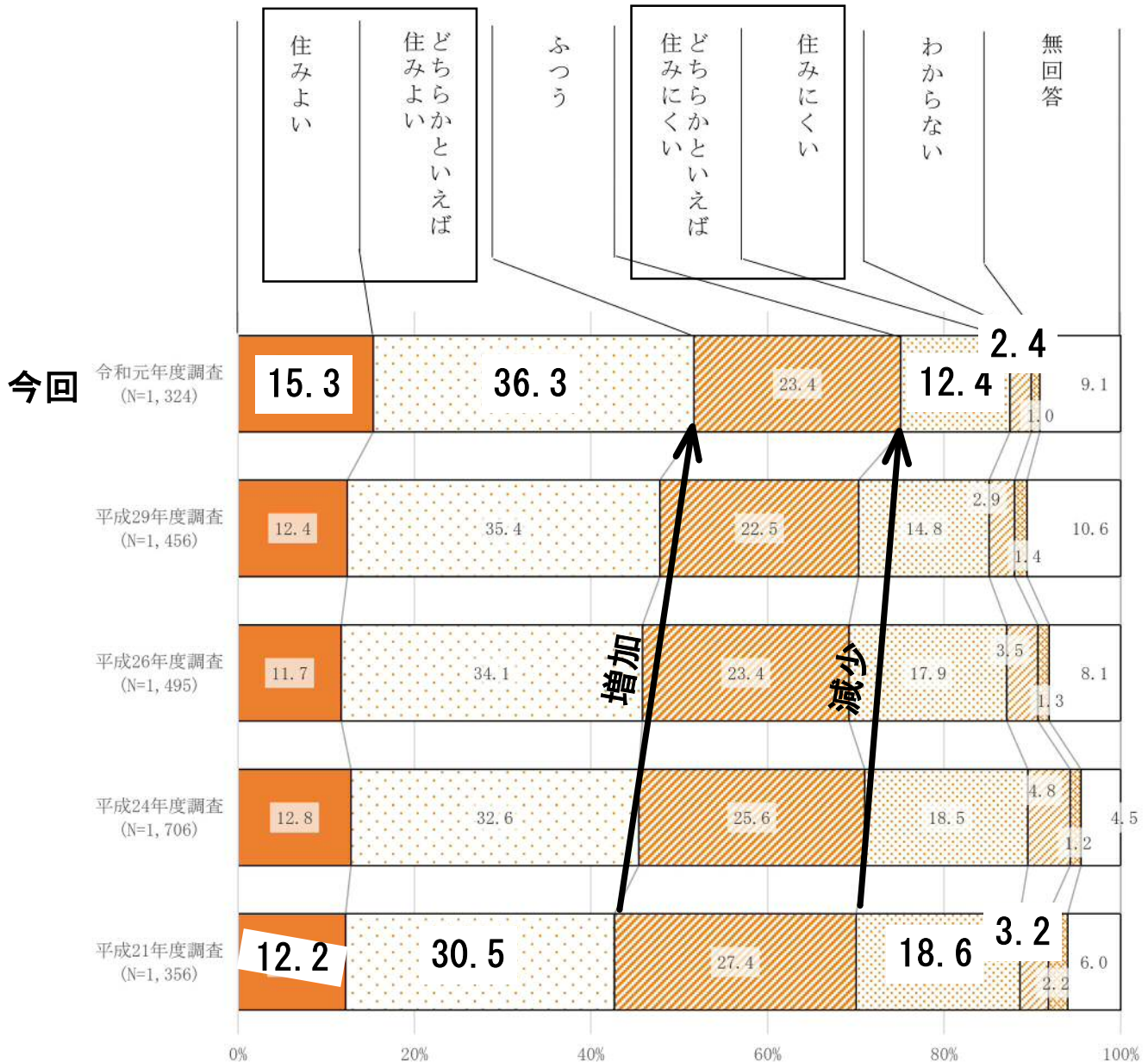
【住みやすさ】

1. 桶川市の住みやすさや生活環境、定住意向について

【経年変化/住みやすさ】

桶川市の住みやすさについて、『住みよい』（「住みよい」＋「どちらかといえば住みよい」）との回答は増加傾向となっており、平成21年度調査では42.7%、令和元年度調査では51.6%となっている。

一方、『住みにくい』（「住みにくい」＋「どちらかといえば住みにくい」）との回答は減少傾向となっており、平成21年度調査では21.8%、令和元年度調査では14.8%となっている。



■設問の「住みよい」「どちらかといえば住みよい」が経年一貫して増加している。42.7%（平成21年）→51.6%（令和元年）

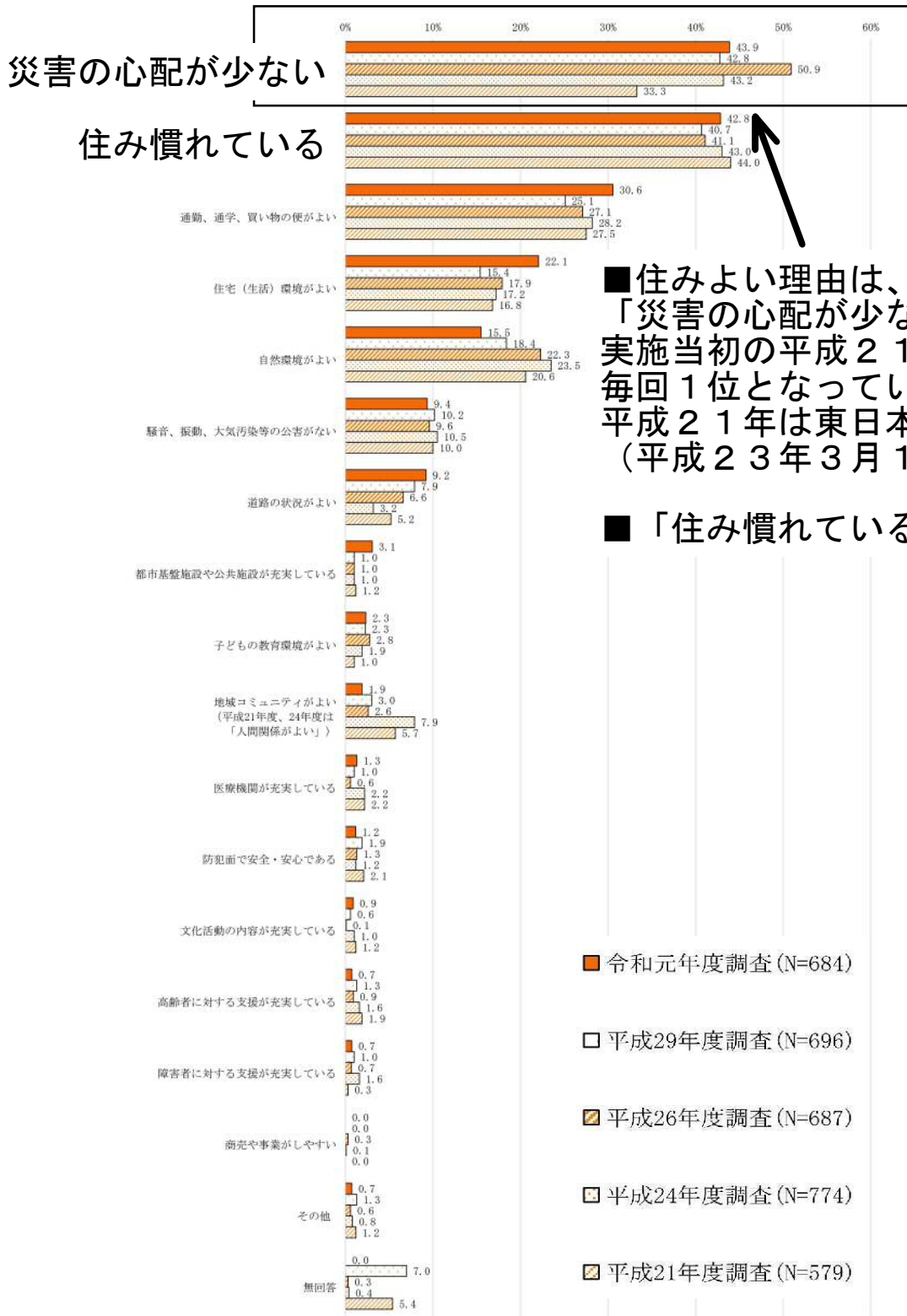
■設問の「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」は減少している。21.8%（平成21年）→14.8%（令和元年）

■市のまちづくりに一定の御理解を頂いている。

【住みよい理由】

【経年変化/住みよい理由】

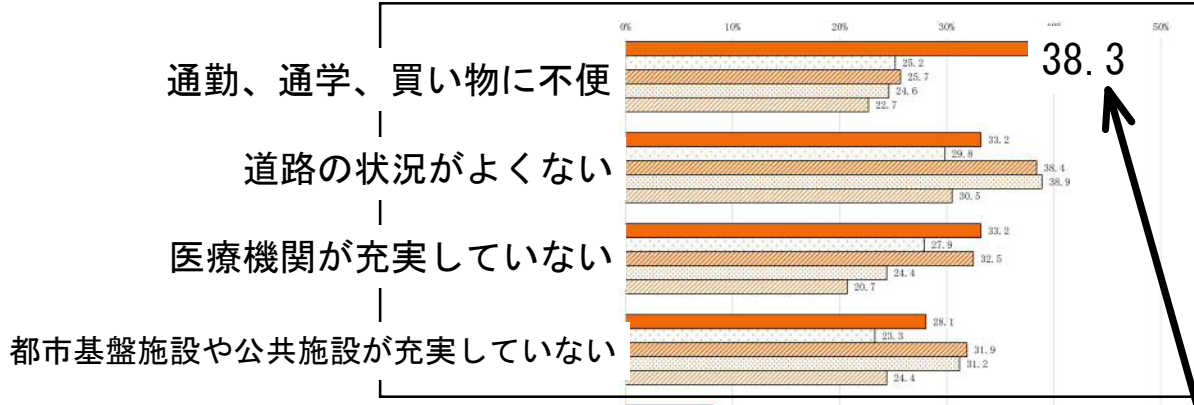
各年度の調査で、「災害の心配が少ない」が平成24年度調査以降40%以上となっている。また、「住宅（生活）環境がよい」は、平成21年度から平成29年度調査で16%前後となっていたが、令和元年度調査で22.1%と増加している。一方で「自然環境がよい」は、平成21年度から平成29年度調査で20%前後となっていたが、令和元年度調査で15.5%と減少している。



【住みにくい理由】

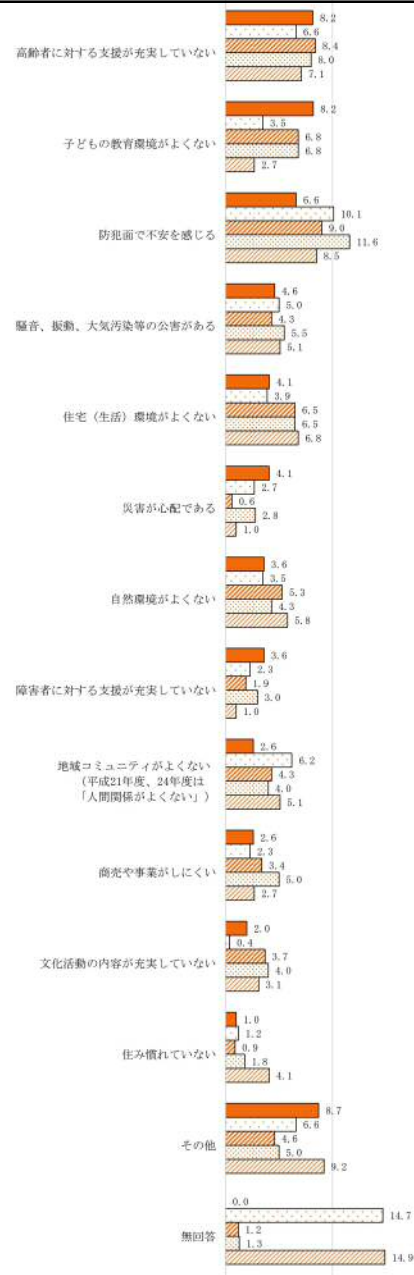
【経年変化／住みにくい理由】

「通勤、通学、買い物に不便」が、平成29年度調査まで25%前後であったが、令和元年度調査では38.3%に増加している。また、「医療機関が充実していない」は、平成21年度調査の20.7%から令和元年度調査の33.2%に増加している。



■ 住みにくい理由は、「通勤、通学、買い物に不便」が今回調査（令和元年）から大きく増加し1位となっている。

■ 但し、全設問で「住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」を選択した196人の中での評価である。

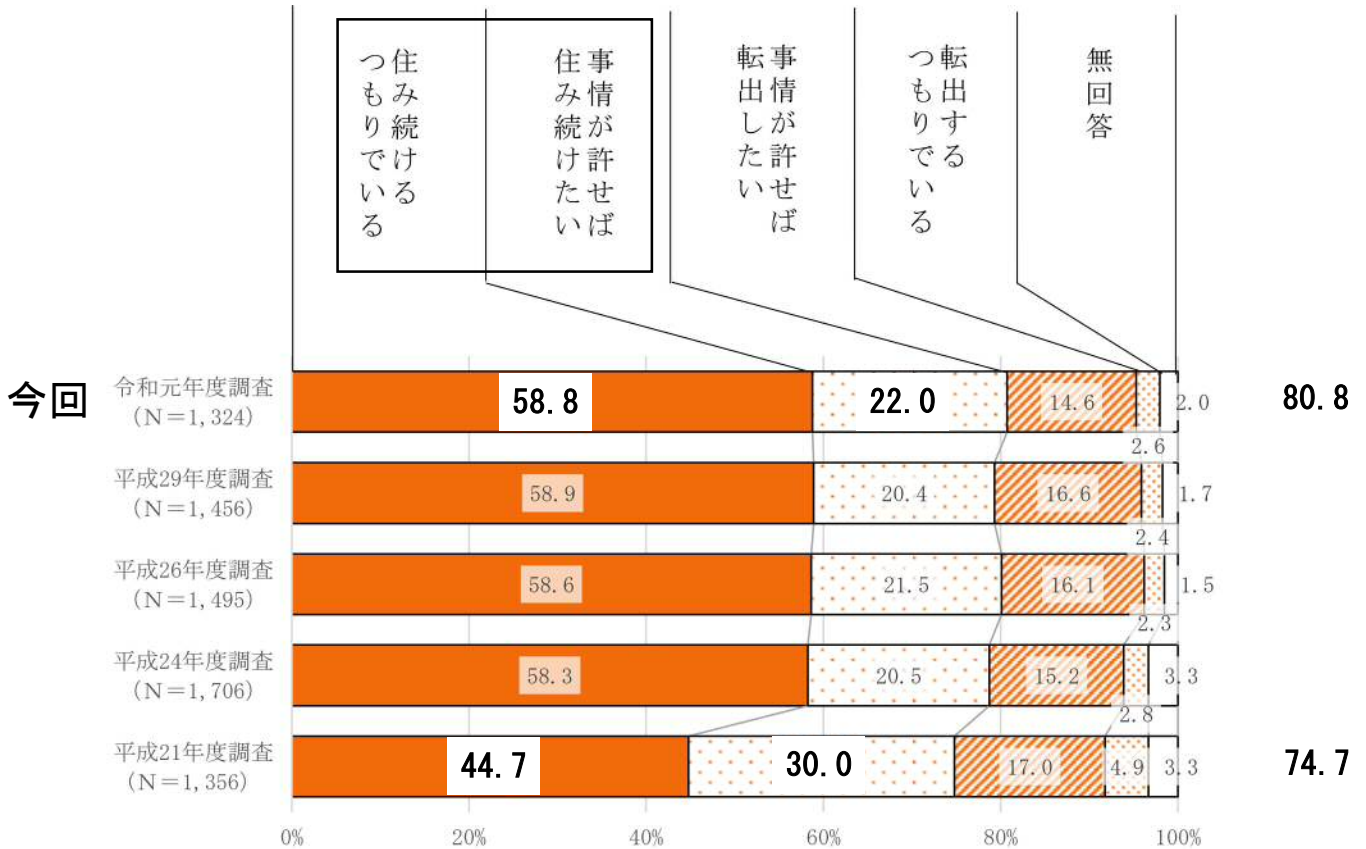


- 令和元年度調査 (N=196)
- 平成29年度調査 (N=258)
- 平成26年度調査 (N=323)
- 平成24年度調査 (N=398)
- 平成21年度調査 (N=295)

【定住意向】

【経年変化／定住意向】

平成24年度調査以降、「住み続けるつもりでいる」並びに「事情が許せば住み続けたい」とする回答群が、全体の80%前後を占め、ほぼ横ばいとなっている。



■ 「住み続けるつもりでいる」と「事情が許せば住み続けたい」とする回答が、近年全体の80%前後を占め、ほぼ横ばいとなっている。

■ 内訳を見ると「住み続けるつもり」とする回答は増加しており、「事情が許せば住み続けたい」とする回答は減少している。

「住み続けるつもり」44.7%（平成21年） ➡ 58.9%（令和元年）
 「事情が許せば住み続けたい」30.0%（平成21年） ➡ 20.0%（令和元年）

【満足度・不満度】

【経年変化／満足度・不満度上位10位】

満足度については、「家庭ゴミの収集・処理」及び「みどりの豊かさなどの自然環境」とする回答群が、各年度の調査で上位を占めている。

不満度については、「道路の整備状況」、「防犯灯などの防犯施設」及び「病院・診療所などの医療機関」が、各年度の調査で上位を占めている。

『満足』（「満足している」＋「どちらかといえば満足している」）ランキング

	平成21年度調査	平成24年度調査	平成26年度調査	平成29年度調査	令和元年度調査
1位	家庭ごみの収集・処理 36.6%	家庭ごみの収集・処理 35.2%	みどりの豊かさなどの自然環境 35.5%	家庭ごみの収集・処理 38.3%	家庭ごみの収集・処理 39.5%
2位	鉄道の利用 35.8%	みどりの豊かさなどの自然環境 33.3%	家庭ごみの収集・処理 33.0%	みどりの豊かさなどの自然環境 36.1%	みどりの豊かさなどの自然環境 36.3%
3位	し尿や家庭排水の処理 33.2%	鉄道の利用 31.2%	空気のきれいさ 30.4%	住居等、各種証明発行サービスの利便性 33.0%	息や振動のない静けさ 34.4%
4位	みどりの豊かさなどの自然環境 33.0%	各種証明発行サービスの利便性 28.6%	鉄道の利用 30.4%	窓口・電話口での職員への対応 32.3%	鉄道の利用 33.5%
5位	買い物・金融機関などの利用 30.5%	買い物・金融機関などの利用 27.9%	各種証明発行サービスの利便性 28.2%	空気のきれいさ 32.1%	空気のきれいさ 32.4%
6位	住居等、各種証明発行サービスの利便性 29.7%	空気のきれいさ 25.8%	息や振動のない静けさ 27.7%	買い物・金融機関などの利用 30.6%	買い物・金融機関などの利用 32.3%
7位	窓口・電話口での職員への対応 28.5%	し尿や家庭排水の処理 25.8%	窓口・電話口での職員への対応 26.5%	息や振動のない静けさ 30.4%	住居等、各種証明発行サービスの利便性 31.8%
8位	息や振動のない静けさ 27.7%	息や振動のない静けさ 25.3%	買い物・金融機関などの利用 25.6%	鉄道の利用 30.4%	窓口・電話口での職員への対応 30.9%
9位	空気のきれいさ 25.6%	窓口・電話口での職員への対応 25.0%	し尿や家庭排水の処理 24.7%	し尿や家庭排水の処理 27.7%	図書館や公民館などにおける社会教育活動 30.3%
10位	広報「おけがわ」の内容 24.3%	近所づきあいや地域のつながり 23.2%	広報「おけがわ」の内容 24.4%	広報「おけがわ」の内容 27.3%	広報「おけがわ」の内容 29.9%

『不満』（「どちらかといえば不満である」＋「不満である」）ランキング

	平成21年度調査	平成24年度調査	平成26年度調査	平成29年度調査	令和元年度調査
1位	川などの水辺と親しめる環境 44.9%	道路の整備状況 45.7%	病院・診療所などの医療機関 46.7%	病院・診療所などの医療機関 41.1%	防犯灯などの防犯施設 38.2%
2位	防犯灯などの防犯施設 41.6%	防犯灯などの防犯施設 43.3%	道路の整備状況 45.2%	防犯灯などの防犯施設 40.3%	病院・診療所などの医療機関 37.3%
3位	道路の整備状況 38.6%	病院・診療所などの医療機関 39.5%	防犯灯などの防犯施設 42.7%	道路の整備状況 37.0%	道路の整備状況 34.5%
4位	病院・診療所などの医療機関 36.5%	子供の遊び場や公園など 38.2%	子供の遊び場や公園など 38.2%	バス利用（市内循環バス「へにばなGO」） 36.4%	バス利用（市内循環バス「へにばなGO」） 34.5%
5位	趣味や学習のための施設 34.3%	遊歩道などの交通安全施設 36.3%	川などの水辺と親しめる環境 35.5%	子どもの遊び場や公園など 32.8%	子どもの遊び場や公園など 32.6%
6位	子供の遊び場や公園など 33.2%	川などの水辺と親しめる環境 35.7%	趣味や学習のための施設 35.3%	川などの水辺と親しめる環境 31.9%	グラウンドなどのスポーツ施設 30.9%
7位	バスの利用 32.4%	趣味や学習のための施設 33.0%	国際交流の推進 34.0%	国際交流の推進 31.1%	バス利用（路線バス） 30.1%
8位	高齢者が生活する環境として 31.2%	国際交流の推進 30.0%	バス利用（「へにばなGO」） 32.6%	バス利用（路線バス） 30.8%	信号機・ガードレールなどの交通安全施設 29.6%
9位	市民意見・要望の市政への反映 28.5%	バス利用（「へにばなGO」） 29.7%	信号機などの交通安全施設 32.2%	趣味や学習のための施設 30.0%	国際交流の推進 28.6%
10位	信号機・ガードレールなどの交通安全施設 28.5%	市民意見・要望の市政への反映 28.7%	バス利用（路線バス） 31.8%	信号機・ガードレールなどの交通安全施設 28.7%	川などの水辺と親しめる環境 27.5%

■ 満足度については、「家庭ゴミの収集」「みどりの豊かさなどの自然環境」が、各年度の調査で上位となっている。（黄色塗）
令和元年度は、「家庭ゴミの収集・処理」が1位となっている。

■ 不満度については、「道路の整備状況」「防犯灯などの防犯施設」「病院・診療所などの医療機関」が、各年度の調査で上位となっている（赤色塗）
令和元年度は、「防犯灯などの防犯施設」が1位となっている。

【よくなったもの・力を入れてほしいもの】

【経年変化／よくなったもの・力を入れてほしいもの上位10位】

よくなったものについては、「市内と周辺地域を結ぶ地域幹線道路の整備」及び「こども医療費の無料化の充実」などが各調査で上位を占めている。

力を入れてほしいものについては、各調査で「桶川駅周辺の中心市街地の活性化」が1位、「桶川駅の整備」が2位となっており、「保健や医療の充実」「高齢者福祉サービスの充実」が3位または4位で上位を占めている。

よくなったものランキング

	平成21年度調査	平成24年度調査	平成26年度調査	平成29年度調査	令和元年度調査
1位	桶川駅の整備 18.9%	市内と周辺地域を結ぶ地域幹線道路整備 17.2%	こども医療費の無料化の充実 23.0%	市内と周辺地域を結ぶ地域幹線道路整備 32.5%	桶川駅の整備 35.3%
2位	ごみの減量化やリサイクルの推進 13.6%	公共下水道の整備 15.0%	市内と周辺地域を結ぶ地域幹線道路整備 21.1%	身近な生活道路の整備 17.4%	市内と周辺地域を結ぶ地域幹線道路整備 28.9%
3位	市内と周辺地域を結ぶ地域幹線道路の整備 13.5%	身近な生活道路の整備 13.3%	身近な生活道路の整備 15.5%	こども医療費の無料化の充実 11.8%	こども医療費の無料化の充実 23.4%
4位	公共下水道の整備 13.0%	桶川駅の整備 12.5%	公共下水道の整備 12.6%	市街地の整備 13.0%	身近な生活道路の整備 16.4%
5位	身近な生活道路の整備 11.4%	こども医療費の無料化の充実 11.8%	桶川駅の整備 9.6%	公共下水道の整備 12.4%	市街地の整備 11.6%
6位	こども医療費の無料化の充実 10.0%	信号機など交通安全施設整備 11.0%	信号機など交通安全施設整備 9.6%	桶川駅の整備 10.3%	公共下水道の整備 9.7%
7位	信号機など交通安全施設整備 9.4%	ゴミの減量化やリサイクルの推進 10.5%	市街地の整備 8.9%	公園・緑地の整備 10.1%	公園・緑地の整備 9.4%
8位	公園・緑地の整備 9.0%	公園・緑地の整備 7.2%	ゴミの減量化やリサイクルの推進 8.3%	信号機など交通安全施設整備 8.8%	信号機など交通安全施設整備 8.4%
9位	市街地の整備 7.7%	市街地の整備 7.2%	公園・緑地の整備 8.0%	ゴミの減量化やリサイクルの推進 7.2%	良好な住宅地の整備 6.8%
10位	上水道の整備 7.2%	上水道の整備 7.0%	上水道の整備 6.0%	良好な住宅地の整備 6.3%	ゴミの減量化やリサイクルの推進 5.7%

力を入れてほしいものランキング

	平成21年度調査	平成24年度調査	平成26年度調査	平成29年度調査	令和元年度調査
1位	桶川駅周辺の中心市街地の活性化 33.9%	桶川駅周辺の中心市街地の活性化 38.0%	桶川駅周辺の中心市街地の活性化 38.0%	桶川駅周辺の中心市街地の活性化 35.6%	桶川駅周辺の中心市街地の活性化 37.2%
2位	桶川駅の整備 18.8%	桶川駅の整備 23.7%	桶川駅の整備 26.1%	桶川駅の整備 28.4%	桶川駅の整備 18.8%
3位	高齢者福祉サービスの充実 18.1%	高齢者福祉サービスの充実 15.1%	保健や医療の充実 19.3%	保健や医療の充実 19.3%	保健や医療の充実 17.1%
4位	保健や医療の充実 15.8%	保健や医療の充実 14.1%	高齢者福祉サービスの充実 14.9%	高齢者福祉サービスの充実 14.9%	高齢者福祉サービスの充実 14.7%
5位	身近な生活道路の整備 11.4%	身近な生活道路の整備 12.7%	身近な生活道路の整備 12.8%	身近な生活道路の整備 12.8%	身近な生活道路の整備 12.2%
6位	雇用対策 10.0%	地元商業の振興 10.3%	公園・緑地の整備 8.8%	出産・子育て支援サービスの充実 8.8%	出産・子育て支援サービスの充実 11.0%
7位	地元商業の振興 9.4%	公園・緑地の整備 9.7%	出産・子育て支援サービスの充実 8.6%	公園・緑地の整備 8.6%	公園・緑地の整備 10.6%
8位	自然環境の保全 9.1%	消防、防災、防犯対策の充実 8.4%	地元商業の振興 8.3%	消防、防災、防犯対策の充実 8.3%	消防、防災、防犯対策の充実 9.7%
9位	消防、防災、防犯対策の充実 9.1%	市街地の整備 8.1%	街並み・景観づくり 8.2%	街並み・景観づくり 8.2%	信号機など交通安全施設整備 9.4%
10位	街並み・景観づくり 8.8%	信号機など交通安全施設整備 8.0%	市街地の整備 7.7%	信号機など交通安全施設整備 7.6%	治水・排水機能に配慮した河川・水路の整備 9.3%

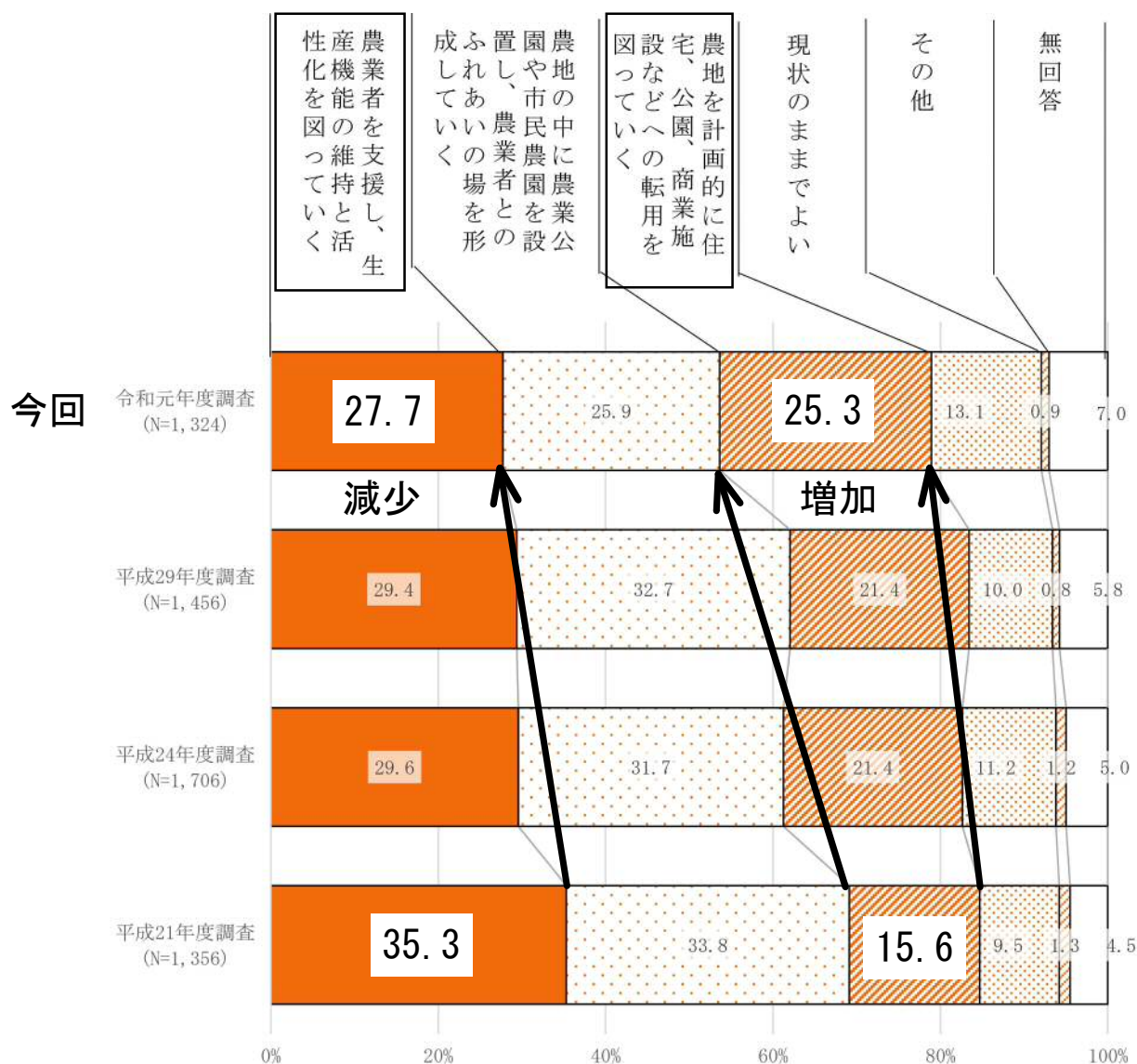
■よくなったものは、「市内と周辺地域を結ぶ地域幹線道路の整備」、「こども医療費の無料化の充実」が、毎回上位となっている。（黄色塗）令和元年度は「桶川駅の整備」が1位となっている。前回調査（平成29年）では6位。駅自由通路等の整備が奏功している。

■一方で、力を入れてほしいものは、毎回、「桶川駅周辺の中心市街地の活性化」が1位、「桶川駅の整備」が2位となっている。（赤色塗）中心市街地の活性化を望む声は依然高い。

2. 土地利用と都市整備の方向性について

【経年変化／今後の市街化調整区域内の農地の在り方の方向性】

「農業者を支援し、生産機能の維持と活性化を図っていく」が減少傾向となっている。
 一方で、「農地を計画的に住宅、公園、商業施設などへの転用を図っていく」が増加傾向となっている。



※平成26年度調査では、当該設問なし

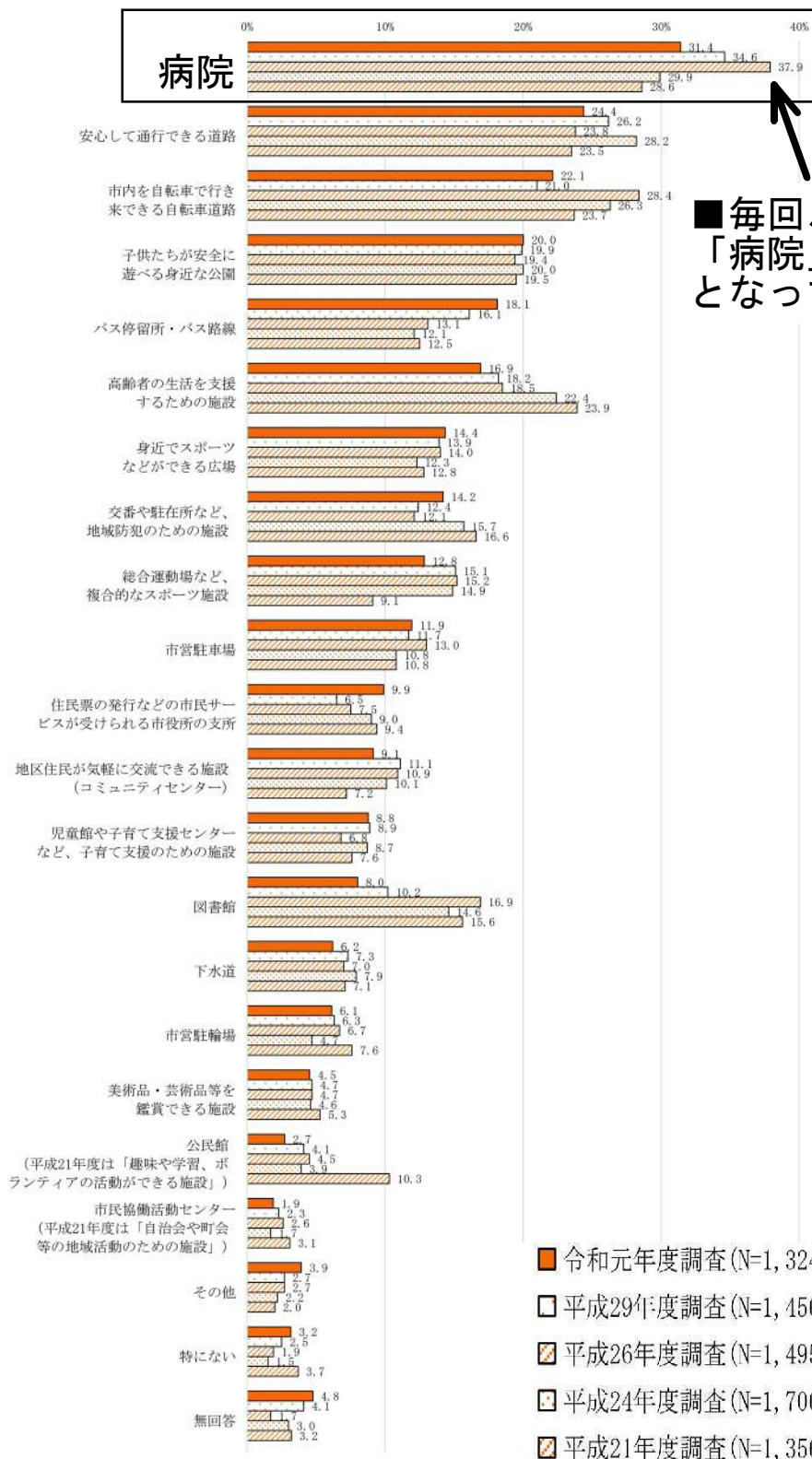
■設問の「農業者を支援し、生産機能の維持と活性化を図っていく」が経年一貫して、減少している。
 35.3%（平成21年）⇒27.7%（令和元年）

■設問の「農地を計画的に住宅、公園、商業施設などへの転用を図っていく」が増加している。
 15.6%（平成21年）⇒25.3%（令和元年）

【望む公共施設】

【経年変化／都市整備「望む公共施設」】

各年度の調査で「病院」が最も多くなっている。また、「高齢者の生活を支援するための施設」は減少傾向となっている。

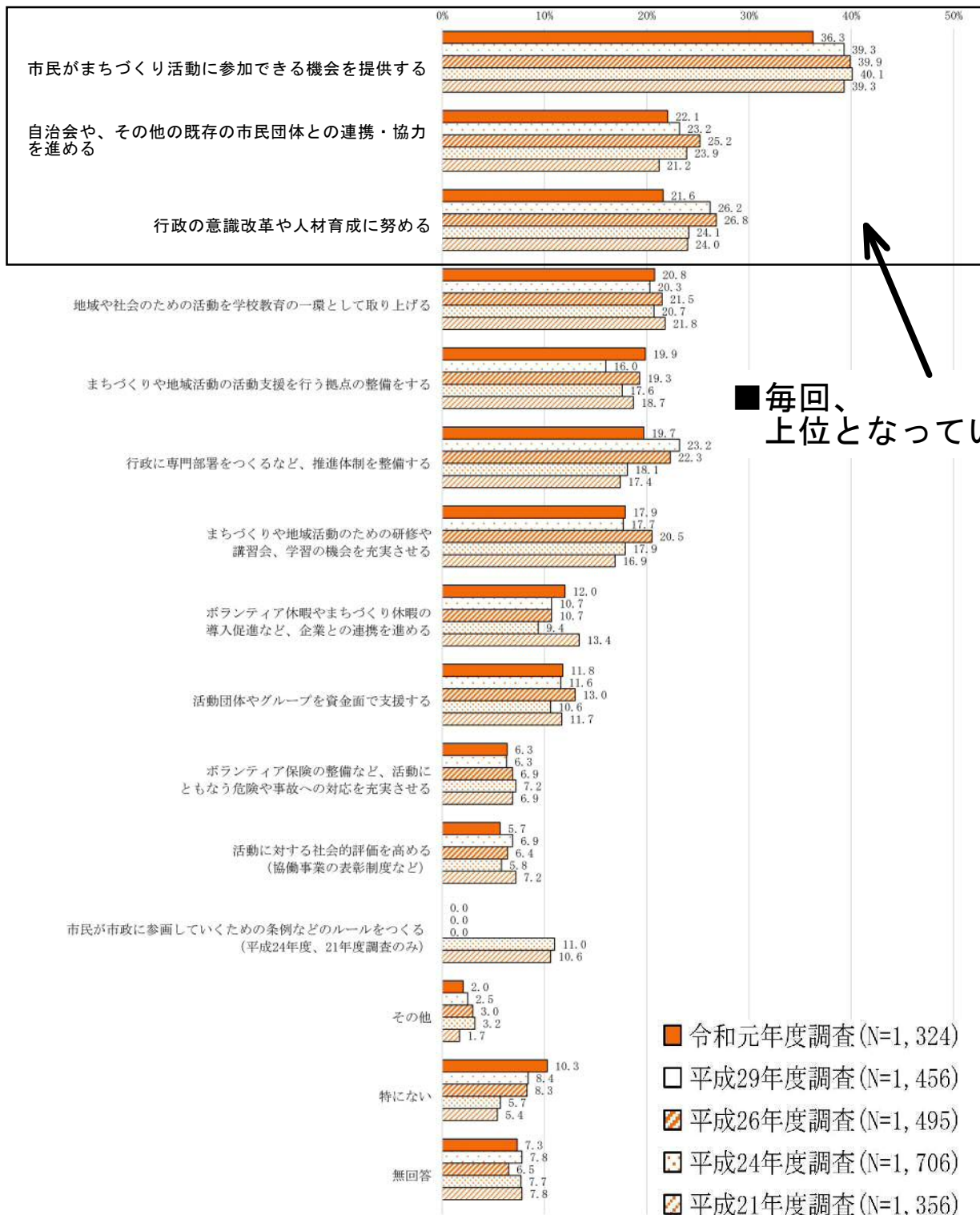


■ 毎回、「病院」が1位となっている。

3. 協働のまちづくりについて

【経年変化／協働のまちづくりを進めるうえで、市が取り組むべきこと】

各年度の調査で「市民がまちづくり活動に参加できる機会を提供する」が最も多くなっている。また、「自治会や、その他の既存の市民団体との連携・協力を進める」、「行政の意識改革や人材育成に努める」「地域や社会のための活動を学校教育の一環として取り上げる」が約20～30%となっている。

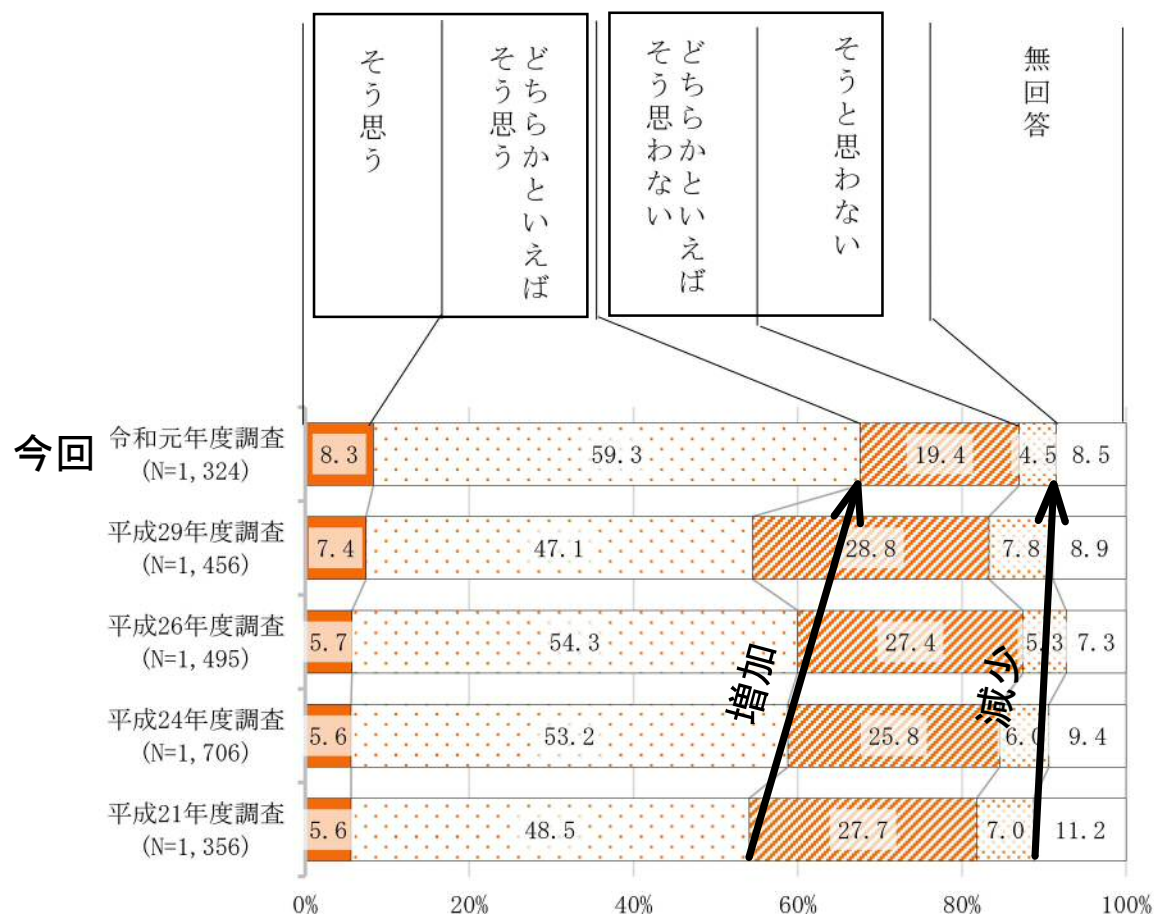


4. 子育て支援について

【経年変化／子育て支援_産み育てやすいまち】

『思う』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）との回答が、平成21年度調査の54.1%から令和元年度調査の67.6%へと増加している。

一方で『思わない』（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）との回答が、平成21年度調査の34.7%から令和元年度調査の23.9%と減少している。



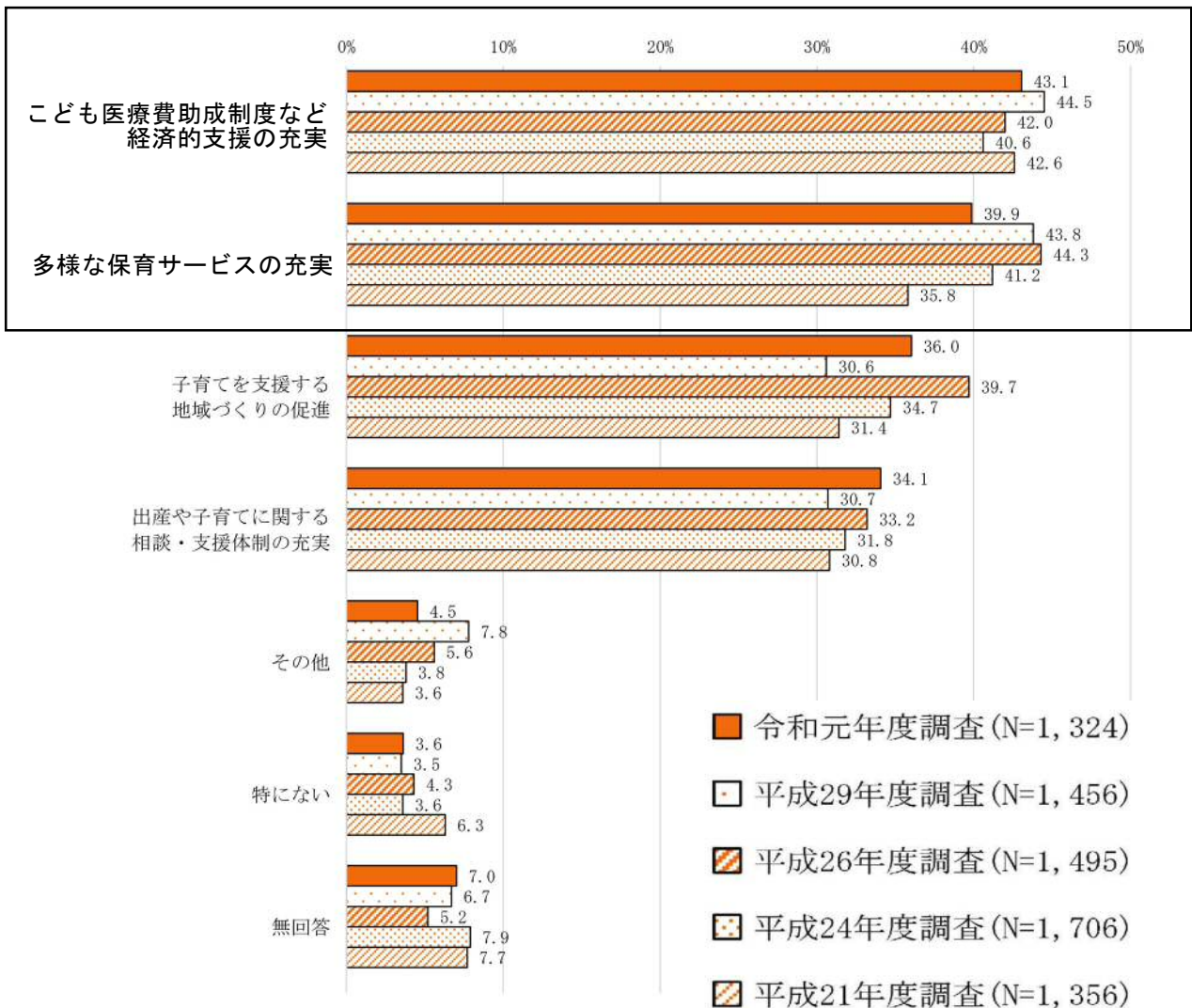
■設問の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が、増加している。
54.1%（平成21年）⇒67.6%（令和元年）

■設問の「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」が、減少している。
34.7%（平成21年）⇒23.9%（令和元年）

【経年変化／安心して子どもを産み、育てられるまちにするために、市が取り組むべきこと】

各年度の調査で「子ども医療費助成制度など経済的支援の充実」、「多様な保育サービスの充実」が40%前後となっている。

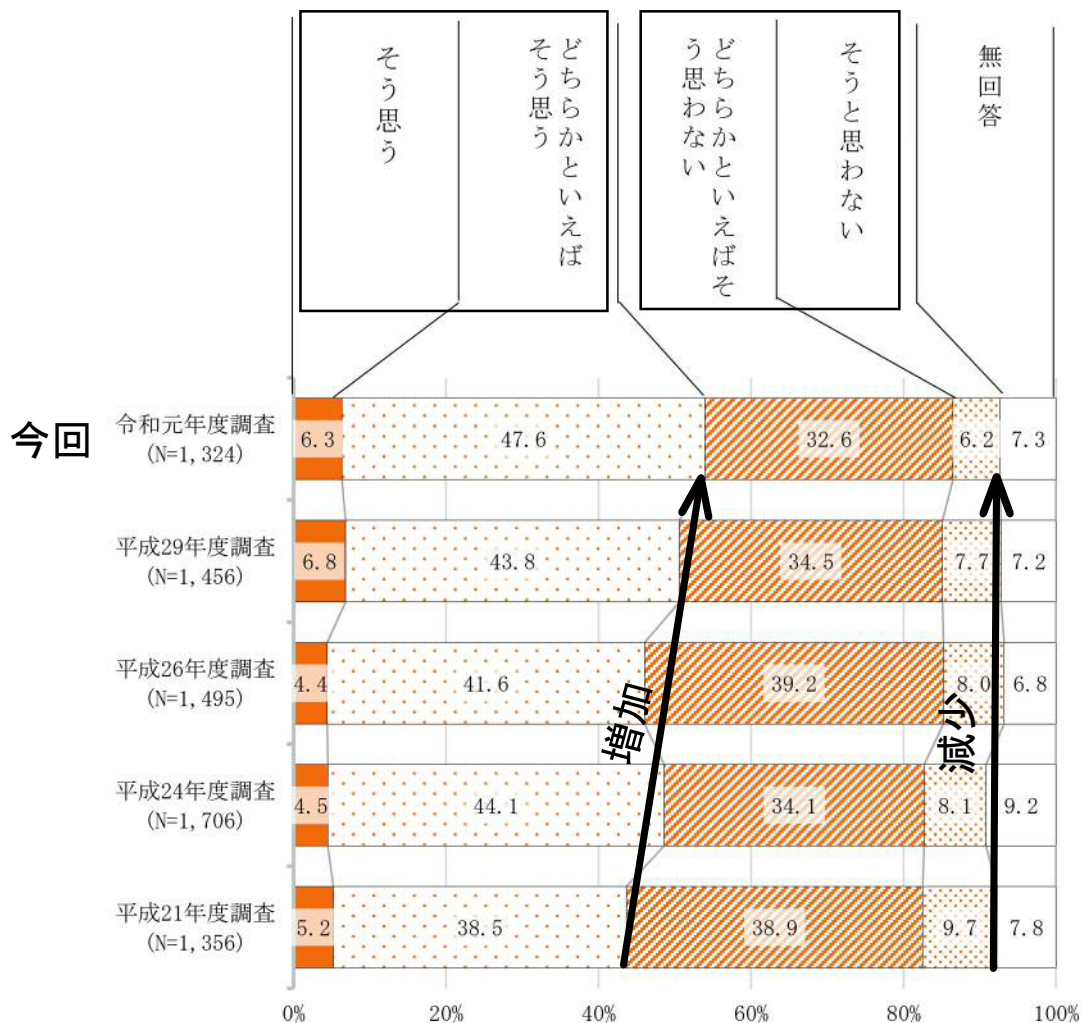
また、平成21年度調査と令和元年度調査を比較すると、「特にない」、「無回答」を除く全項目において増加している。



5. 高齢者福祉の充実について

【経年変化／高齢者が住み続けられると思うか】

『思う』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）との回答が、平成21年度調査の43.7%から令和元年度調査の53.9%へと増加している。一方で『思わない』（「そうと思わない」＋「どちらかといえば思わない」）との回答は、平成21年度調査の48.6%から令和元年度調査の38.8%へと減少している。

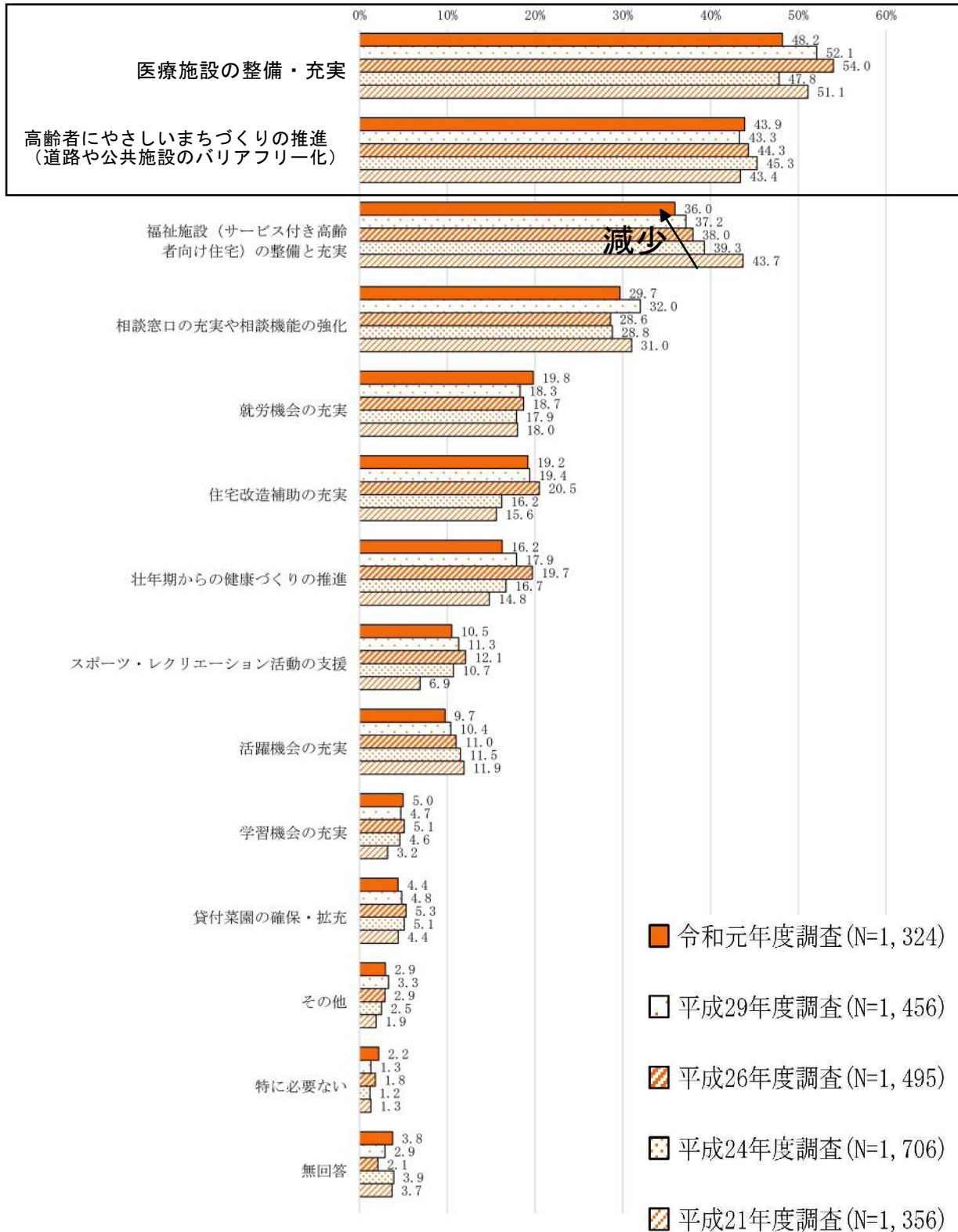


■設問の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が、増加している。
43.7%（平成21年）⇒53.9%（令和元年）

■設問の「そうと思わない」「どちらかといえば思わない」が、減少している。
48.6%（平成21年）⇒38.8%（令和元年）

【経年変化／高齢者のために、市が取り組むべきこと】

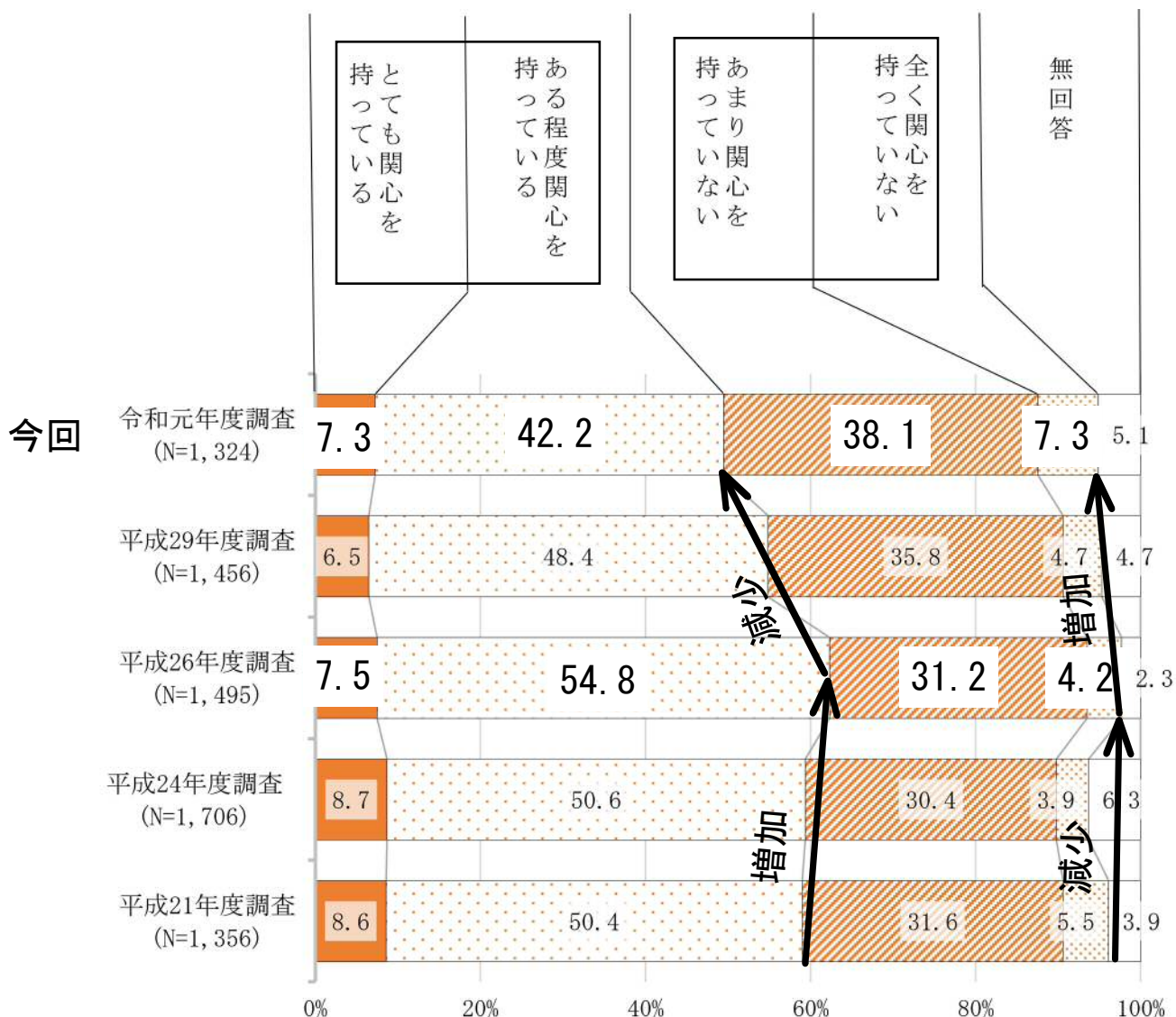
各年度の調査で「医療施設の整備・充実」が50%前後となっており最も多い。次いで、「高齢者にやさしいまちづくりの推進（道路や公共施設のバリアフリー化）」となっている。また、「福祉施設（サービス付き高齢者向け住宅）の整備と充実」は、減少傾向となっている。



6. 市政情報への関心度及び住民の評価について

【経年変化／市政全般に対する関心度】

『関心を持っている』（「とても関心を持っている」＋「ある程度関心を持っている」）との回答は、平成21年度調査での59%から令和元年度調査の49.5%と減少している。



■設問の「関心を持っている」「ある程度関心を持っている」は、平成26年度調査をピークに減少している。
62.3%（平成26年）➡49.5%（令和元年）

■設問の「あまり関心を持っていない」「全く関心を持っていない」は、平成26年度調査をピークに増加している。
35.4%（平成26年）➡45.4%（令和元年）

【経年変化／市政情報の提供に対する住民の評価】

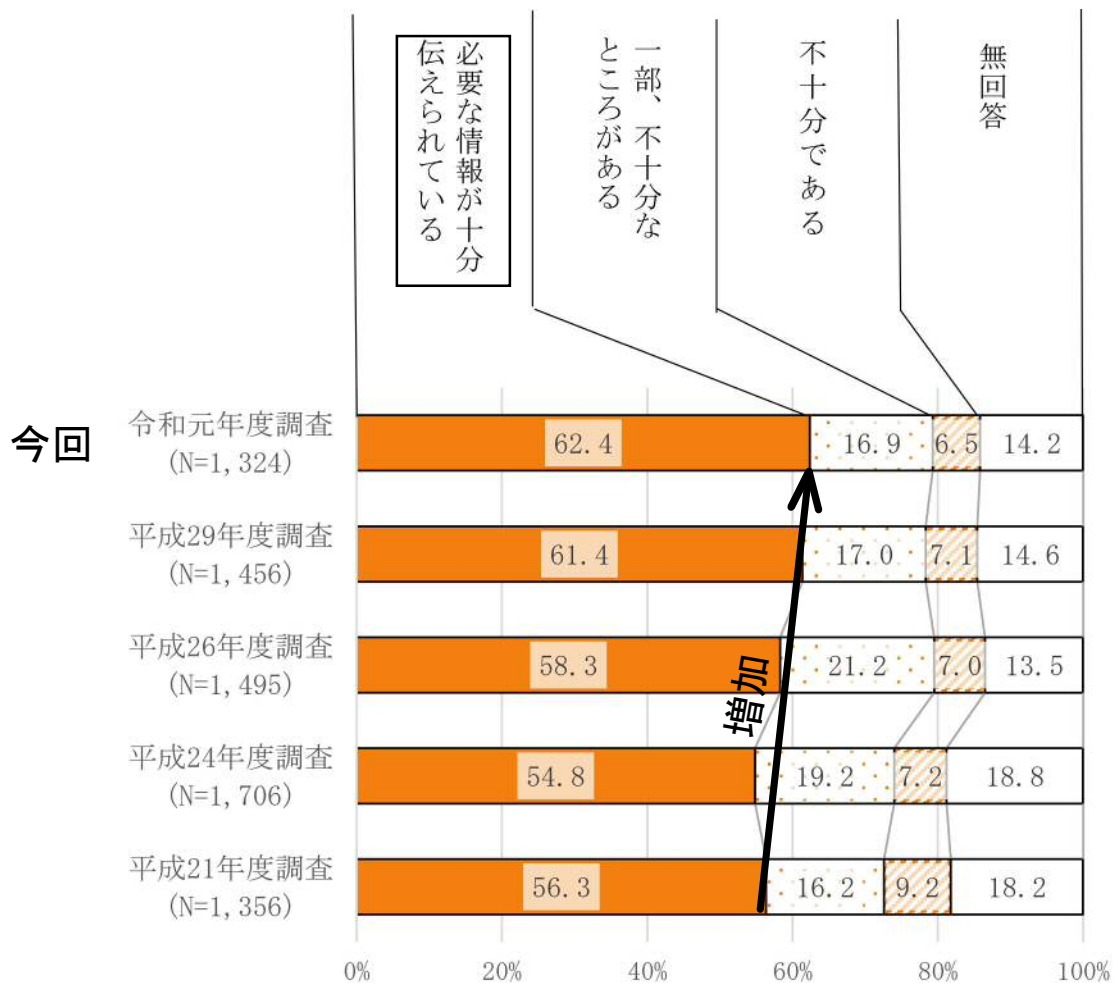
①受信媒体について

各年度の調査で「広報おけがわ」が1位となっている。次いで「回覧」、「議会だより」となっている。

	平成21年度調査 (N=1,356)		平成24年度調査 (n=1,706)		平成26年度調査 (N=1,495)		平成29年度調査 (N=1,456)		令和元年度調査 (N=1,324)	
1位	広報おけがわ	81.7%	広報おけがわ	85.0%	広報おけがわ	90.3%	広報おけがわ	86.3%	広報おけがわ	84.0%
2位	回覧	24.3%	回覧	27.0%	回覧	31.0%	回覧	30.1%	回覧	25.6%
3位	議会だより	20.1%	議会だより	21.4%	議会だより	23.5%	議会だより	17.2%	議会だより	15.9%
4位	人づて	10.0%	ホームページ	9.2%	ホームページ	11.5%	ホームページ	11.7%	ホームページ	15.9%
5位	ホームページ	9.7%	人づて	8.0%	人づて	9.2%	人づて	8.7%	知人	6.7%
6位	新聞	5.5%	新聞	5.4%	新聞	5.2%	新聞	3.6%	新聞	6.1%
7位	掲示板	3.9%	掲示板	2.8%	自治会、団体の会合	2.5%	自治会、団体の会合	2.5%	掲示板	2.6%
8位	自治会、団体の会合	1.9%	自治会、団体の会合	1.9%	議会議員	1.5%	掲示板	2.4%	自治会、団体の会合	2.0%
9位	議会議員	1.4%	議会議員	1.3%	掲示板	1.4%	議会議員	0.8%	議会議員	0.8%
10位	議会傍聴	0.0%	議会傍聴	0.2%	議会傍聴	0.4%	議会傍聴	0.2%	議会傍聴	0.0%

②評価について

「必要な情報が十分に伝えられている」が緩やかな増加傾向となっている。



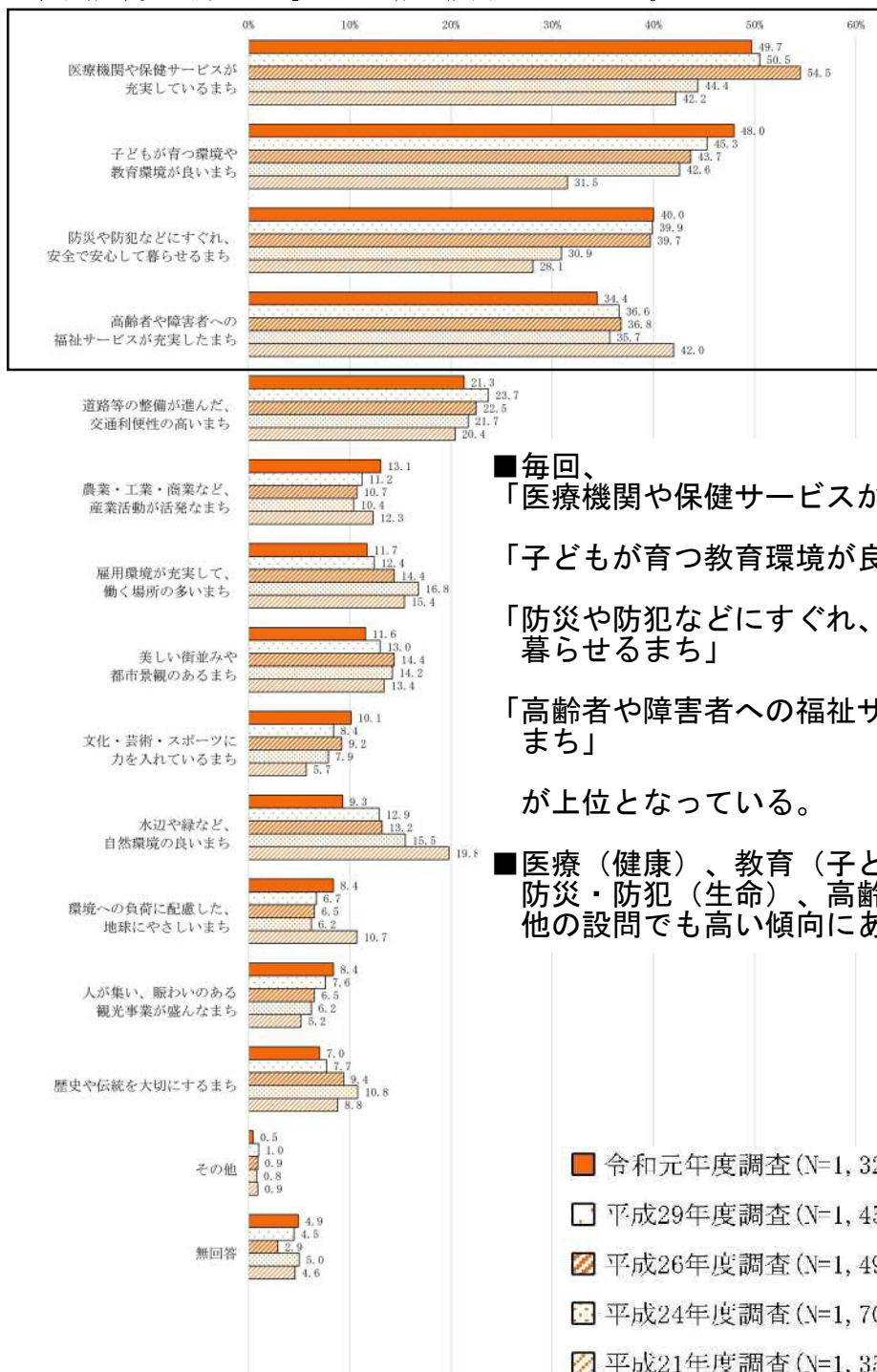
【10年後の桶川の将来像】

7. 10年後の桶川市 ～将来都市像について～

【経年変化／10年後の桶川市】

各年度の調査で、「医療機関や保健サービスが充実しているまち」、「子どもが育つ環境や教育環境が良いまち」、「防災や防犯などにすぐれ、安全で安心して暮らせるまち」、「高齢者や障害者への福祉サービスが充実したまち」が上位となっている。

また、「子どもが育つ環境や教育環境が良いまち」、「防災や防犯などにすぐれ、安全で安心して暮らせるまち」などが増加傾向となっている。一方で、「高齢者や障害者への福祉サービスが充実したまち」「水辺や緑など、自然環境の良いまち」などが減少傾向となっている。



- 毎回、「医療機関や保健サービスが充実しているまち」「子どもが育つ教育環境が良いまち」「防災や防犯などにすぐれ、安全で安心して暮らせるまち」「高齢者や障害者への福祉サービスが充実したまち」が上位となっている。
- 医療（健康）、教育（子ども）防災・防犯（生命）、高齢者（福祉）は、他の設問でも高い傾向にある。

【参考：ランキングの推移】

	平成21年度調査(N=1,356)		平成24年度調査(N=1,706)		平成26年度調査(N=1,495)	
1位	医療機関や保健サービスが充実しているまち	42.2%	医療機関や保健サービスが充実しているまち	44.4%	医療機関や保健サービスが充実しているまち	54.5%
2位	高齢者や障がい者などを大切にする福祉の充実したまち	42.0%	子供が育つ環境や教育環境が良いまち	42.6%	子供が育つ環境や教育環境が良いまち	43.7%
3位	子どもが育つ環境や教育環境が良いまち	31.5%	高齢者や障害者への福祉サービスが充実したまち	35.7%	防災や防犯などにすぐれ、安全で安心して暮らせるまち	39.7%
4位	防災や防犯などに地域で取り組む、安全で安心して暮らせるまち	28.1%	防災や防犯などにすぐれ、安全で安心して暮らせるまち	30.9%	高齢者や障害者への福祉サービスが充実したまち	36.8%
5位	道路等の整備が進んだ、交通利便性の高いまち	20.4%	道路等の整備が進んだ、交通利便性の高いまち	21.7%	道路等の整備が進んだ、交通利便性の高いまち	22.5%
6位	水辺や緑など、自然環境の良いまち	19.8%	雇用環境が充実して、働く場所の多いまち	16.8%	美しい街並みや都市景観のあるまち	14.4%
7位	雇用環境が充実して、働く場所の多いまち	15.4%	水辺や緑など、自然環境が良いまち	15.5%	雇用環境が充実して、働く場所の多いまち	14.4%
8位	美しい街並みや都市景観のあるまち	13.4%	美しい街並みや都市景観のあるまち	14.2%	水辺や緑など、自然環境が良いまち	13.2%
9位	農業・工業・商業など、産業活動が活発なまち	12.3%	歴史や伝統を大切にすまち	10.8%	農業・工業・商業など、産業活動が活発なまち	10.7%
10位	環境への負荷に配慮した、地球にやさしいまち	10.7%	農業・工業・商業など、産業活動が活発なまち	10.4%	歴史や伝統を大切にすまち	9.4%

	平成29年度調査(N=1,456)		令和元年度調査(N=1,324)	
1位	医療機関や保健サービスが充実しているまち	50.5%	医療機関や保健サービスが充実しているまち	49.7%
2位	子供が育つ環境や教育環境が良いまち	45.3%	子供が育つ環境や教育環境が良いまち	48.0%
3位	防災や防犯などにすぐれ、安全で安心して暮らせるまち	39.9%	防災や防犯などにすぐれ、安全で安心して暮らせるまち	40.0%
4位	高齢者や障害者への福祉サービスが充実したまち	36.6%	高齢者や障害者への福祉サービスが充実したまち	34.4%
5位	道路等の整備が進んだ、交通利便性の高いまち	23.7%	道路等の整備が進んだ、交通利便性の高いまち	21.3%
6位	美しい街並みや都市景観のあるまち	13.0%	農業・工業・商業など、産業活動が活発なまち	13.1%
7位	水辺や緑など、自然環境の良いまち	12.9%	雇用環境が充実して、働く場所の多いまち	11.7%
8位	雇用環境が充実して、働く場所の多いまち	12.4%	美しい街並みや都市景観のあるまち	11.6%
9位	農業・工業・商業など、産業活動が活発なまち	11.2%	文化・芸術・スポーツに力を入れているまち	10.1%
10位	文化・芸術・スポーツに力を入れているまち	8.4%	水辺や緑など、自然環境の良いまち	9.3%

桶川市振興計画審議会条例

(目的)

第 1 条 この条例は、地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 138 条の 4 第 3 項の規定に基づき、桶川市振興計画審議会の設置、組織及び運営に関する事項を定めることを目的とする。

(設置)

第 2 条 市長の諮問に応じ、市振興計画の策定その他の実施に関し必要な調査及び審議を行うため桶川市振興計画審議会(以下「審議会」という。)を置く。

(組織)

第 3 条 審議会は、委員 12 人以内で組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから必要の都度市長が委嘱する。

- (1) 市の議会の議員
- (2) 市民
- (3) 市の教育委員会の委員
- (4) 市の農業委員会の委員
- (5) 市内の公共的団体等の役員及び職員
- (6) 学識経験を有する者

(会長及び副会長)

第 4 条 審議会に、会長及び副会長 1 人を置き、委員の互選によつてこれを定める。

2 会長は、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。

(委員)

第 5 条 委員は、当該諮問に係る審議が終了したときは、解任されるものとする。

(部会)

第 6 条 審議会に、必要に応じ、部会を置くことができる。

2 部会に属させる委員は、会長が指名する。

第 7 条 部会に部会長を置き、部会に属する委員の互選によつてこれを定める。

2 部会長は、部会の事務を掌理する。

3 部会長に事故あるときは、あらかじめその指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第 8 条 審議会又は部会の会議は、それぞれ会長又は部会長が招集する。

2 審議会又は部会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 審議会又は部会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、それぞれ会長又は部会長の決するところによる。

(庶務)

第 9 条 審議会の庶務は、企画財政部企画調整課において処理する。

(雑則)

第 10 条 この条例に定めるもののほか、審議会に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

桶川市振興計画審議会 委員名簿

NO.	団体名（条例第3条第2項の区分）	氏名
1	桶川市議会議員（1号委員）	いわさき たかし 岩崎 隆志
2	桶川市議会議員（1号委員）	にいじま みつあき 新島 光明
3	桶川市議会議員（1号委員）	おかやす まさひこ 岡安 政彦
4	桶川市青少年相談員協議会（2号委員）	いのうえ ごろう 井上 悟郎
5	桶川市青少年相談員協議会（2号委員）	あきやま りんか 秋山 梨花
6	桶川市教育委員会（3号委員）	みずむら じつお 水村 実男
7	桶川市農業委員会（4号委員）	わくつ かずみ 和久津 一美
8	桶川市民生委員・児童委員協議会（5号委員）	なかむら ふみお 中村 文雄
9	桶川市商工会（5号委員）	しぶや みつあき 澁谷 光章
10	桶川市区長会（5号委員）	よしだ こうぞう 吉田 耕造
11	日本大学理工学部（6号委員）	おおさわ まさはる 大沢 昌玄
12	早稲田大学環境総合研究センター（6号委員）	ながい ゆうじ 永井 祐二